

世代を超えて支え合う地域の拠点

こども食堂 青空（敦賀市）

SDGsに貢献！

- ・食を中心に、地域の子どもと大人がつながる多世代交流の場をつくる
- ・学習と体験の機会を提供し、子どもたちの健やかな成長を支援する



1.アルプラザ敦賀で開催した「青空学習会」 2.「おくちからだプロジェクト」の紙芝居の様子 3.こども食堂では、子どもたちもデザート作りに参加

取り組みのきっかけ

十分な食事をとれない子どもや、孤食を続ける子どもに食事や居場所を提供したい。「青空」を立ち上げたときのこの思いは、SDGsと共通する、私たちの活動の原点です。こども食堂は、子どもから高齢者まで利用できる“地域の居場所”であり、その中から見えてくる課題もあります。事業運営にSDGsの視点を加えることで、多世代交流や地域の連携、高齢者の生きがい創出、子育て支援、虐待防止、孤食回避などの活動がより進むと考えました。

特に注力しているSDGsの取り組み

「青空」に来る子どもたちは、友達と遊んだり、さまざまな経験を持つ多様な世代の大人と交流したりすることができ、新しい価値観との出会いが人生の選択肢を広げると思っています。宿題など勉強の場を提供する「青空学習会」や、企業との連携事業で、歯と口の健康を学ぶ「おくちからだプロジェクト」の体験キットを使った正しい歯磨きの学習・体験等も実施しています。これからも企業や教育関係者にご協力いただきながら、子どもたちの生活や学習を支援していきます。

担当者の思い

代表 中村 幸恵さん

開設から8年経ち、中学生のときから「青空」に来ていた子の中には、他県で働きながら、その地域の子ども食堂のスタッフとして活動している子もいます。また、小学生だった子が高校生になり、「青空」の運営に参加してくれるなど、日々の活動の中で、こども食堂とSDGsの意義、人々に及ぼす力の大きさを感じています。



Company Information

こども食堂 青空

住所 / 福井県敦賀市津内町
事業内容 / 子ども食堂、学習支援事業、フードドライブ、フードパントリー事業
創業年 / 2015年
代表者 / 代表 中村 幸恵
従業員 / 29名
<https://kodomo-aozora.org/>



団体ホームページ

越前和紙の技術でアフリカ・ザンビアに貢献

瀧 株式会社（越前市）

SDGsに貢献！

- ・ザンビアに自生するバナナの茎から紙を作るプロジェクトに参画
- ・社会の持続可能性と生物多様性に寄与する仕事に取り組み中



1.バナナペーパー発起人のペオ・エクベリさん（左）と 2.ザンビアの工場に提供した「ピーター」という機械 3.工場で紙漉きを指導する様子

取り組みのきっかけ

越前和紙の里で、紙漉きから印刷まで一貫生産で和紙製品を作っている当社は、前のめりな社風があり、主要取引先が取り組むことになったプロジェクトに参画しました。そのプロジェクトは、途上国の貧困や環境問題の解決を目指し、アフリカのザンビアに自生するバナナの茎を原料に紙を作るというものです。プロジェクトから生まれたバナナペーパーは日本初のフェアトレード認証の紙として、日本全国で名刺や包装紙、紙袋、卒業証書などに幅広く活用され、注目を集めています。

特に注力しているSDGsの取り組み

プロジェクトは現在も進行中です。バナナペーパーはザンビアで作られた原料を使って日本で製造していますが、現地でもポストカードなどの製品づくりができるよう、代表者が自らザンビアに出向き、越前和紙の手漉き技術を伝授しました。また、紙の原料になるバナナの茎を細かい繊維状にする作業を機械化できるように、越前市で製造された「ピーター」という機械を提供しました。現地の人たちの生活基盤を固めるべく、バナナペーパーの生産力向上に前のめりで協力しています。

担当者の思い

代表取締役 滝 道生さん

バナナペーパーのプロジェクトでアフリカのザンビアを訪れた際、紙を作る工場の施設の建設工事が行われていました。限られた資材を有効に活用し、現地の人たちと力を合わせて一步一步進んでいく工事の様子や、工場の敷地内に掘った井戸を近所の人たちと共有する様子に驚き、自分自身の生活や考え方を見つめ直すきっかけになりました。



Company Information

瀧 株式会社

住所 / 福井県越前市岩本町2-72-1
事業内容 / 和紙製品の製造・加工・販売
創業年 / 1965年
代表者 / 代表取締役 滝 道生
従業員 / 14名
<https://www.takipaper.com/>



会社ホームページ

からだと地球に優しいプラントベースフードでSDGsに貢献

株式会社マイセンファインフード（鯖江市）

SDGsに貢献！

- ・肉の代替食品として、大豆と玄米を用いた「大豆ミート」を開発
- ・食をめぐる世界的課題や、自社のSDGsの取り組みを地域で発信



1. 地元の丹南ケーブルテレビで事業内容や大豆ミートを紹介 2. 「さばえSDGsフェス」の様子 3. 肉のような食感の大豆ミート

取り組みのきっかけ

当社は、「安全で安心できる食べ物を通じて世界の人々に健康と豊かさを提供し、未来の子供たちから預かったこの大地を守っていくこと」を社としてしています。昨今、畜産由来のメタンガスによる環境負荷や、世界的な人口増加によるタンパク質クライシス（タンパク質不足）といった食糧危機が懸念されていることから、持続可能な社会を次世代につなぐために、心身の健康と地球の環境保全に配慮したプラントベースフード（植物由来食品）事業を開始しました。

特に注力しているSDGsの取り組み

私たちが動物性タンパク質摂取の多くを依存しているのが肉です。肉に替わる食材として、大豆と玄米で作る「大豆ミート」を開発し、フィレ・ミンチ・スライスの3タイプを製造・販売しています。さらに、食を取り巻く環境と、当社のSDGsの活動を広く知っていただくために、鯖江市主催「さばえSDGsフェス」といったイベントへの参加や、県内民放テレビなどでの情報発信を積極的に実施。商品バリエーションの増加や品質向上にも日々取り組んでいます。

担当者の思い

総務課 佐藤 克彦さん

SDGsの取り組みを通じ、この課題への関心が高い方や、これまで接する機会が少なかった分野の方との交流が広がり、「食の持続可能性」を考えるきっかけが増えたと感じます。これからも「からだにも地球にも優しい食品」をご提供しながら、「食のSDGs」に関する活動に積極的に参画し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



Company Information

株式会社マイセンファインフード

住所 / 福井県鯖江市上野田町12-7-1
事業内容 / プラントベースフードの製造・販売
創業年 / 2014年
代表者 / 代表取締役社長 村井龍昭
従業員 / 30名
<https://www.maisen.co.jp/>



会社ホームページ

廃棄される食材を美味しいお菓子に

株式会社 西勘堂 (坂井市)

SDGsに貢献!

- ・規格外のフルーツを加工して、お菓子の魅力アップ
- ・甘えびの殻を混ぜ込んだ香ばしいサブレが人気商品に



1.甘えびの殻の粉末を混ぜ込んだ「甘えびガレット」 2.規格外のイチゴをソースにして生地に加えたイチゴシフォンケーキ 3.お菓子作りを体験する親子向けのワークショップにも規格外のフルーツを活用

取り組みのきっかけ

創業以来、100年以上が経ちました。地域の農家や生産者と共に、福井の良さを県内や全国にアピールできる唯一無二の商品を作ることを目指したからこそ、サスティナブルな企業になれたのだと感じています。SDGsに取り組もうと思ったのも、農家や生産者との交流がきっかけです。手塩にかけて育てた生産物の中には、通常販売するものと遜色ない味わいであるにも関わらず、形や大きさの問題等により、廃棄されたり肥料になってしまうものもあるということを知り、活用を探りました。

特に注力しているSDGsの取り組み

地元の農園で規格外となったイチゴや三国港で捕れる甘えびの殻など、通常は廃棄される食材をお菓子に加え、フードロスの削減に取り組んでいます。弊社では、素材の味わいを引き立てる製菓に注力しており、規格外のイチゴやメロン、トマトなどをソースにしたり乾燥させたりして、お菓子に活用しています。また、甘えびの殻を香ばしく焼いて粉末にし、生地につぶり加えたガレット・ブルトヌという厚焼きのサブレも好評です。

担当者の思い

西畑 雄介さん

廃棄予定の食材を活用する取り組みは、お菓子を作るパティシエとしてのスキル向上にもつながりました。農家や生産者と直接やり取りすることで、食材のルーツや特徴などをより深く知ることができ、お菓子作りのレベルが上がってきていると感じます。また、店の従業員の間にも、一つ一つの食材を大切に扱う意識が芽生えました。



Company Information

株式会社 西勘堂

住所 / 福井県坂井市春江町江留上本町10-5
事業内容 / 菓子製造業
創業年 / 1920年
代表者 / 代表取締役社長 西畑一朗
従業員 / 17名
<https://www.instagram.com/nishikando/>



会社ホームページ

環境に優しいおいしい米を栽培

有限会社さんさん池見（坂井市）

SDGsに貢献！

- ・バイオ炭（福井県産スギの廃材が原料）を、田んぼの土壌改良材として活用
- ・バイオ炭の散布によって、田んぼの保水性や肥性が向上



1. 廃材を活用したバイオ炭 2. 耕す前の田んぼにバイオ炭を散布する 3. 炭を散布した田んぼを上空から見た様子

取り組みのきっかけ

SDGsの目標15「陸の豊かさを守ろう」と農業は、多くのつながりがあると考えています。当社は主に米を生産しており、米作りを通じて環境保護に取り組めるものを探していたところ、県内企業からバイオ炭（生物資源を材料とした、生物の活性化および環境の改善に効果のある炭化物）を提案されました。バイオ炭は、近年国際的に認められるようになり、福井県の農業試験場の後押しもあったことから、土壌改良剤として使い始めました。

特に注力しているSDGsの取り組み

使用しているバイオ炭は福井県産スギの廃材が原料で、焼却処理せず炭にした場合はCO2排出量を約半分に抑えられます。田んぼを耕す前の春にバイオ炭を土壌改良材として散布することで、炭によって保水性や肥性が向上し、稲にとって最適な土壌環境になると言われています。県農業試験場と共同で炭の効果を調べる試験を繰り返しており、将来的には、バイオ炭を使ったブランド米を栽培していきたいと考えています。

担当者の思い

取締役 大嶋 朋裕さん

SDGsがきっかけとなり、バイオ炭という新たな土壌改良材の存在を知ることができました。また、バイオ炭を通して大学や県内外の企業とのつながりができ、農業の可能性が広がりました。今後はバイオ炭の認知度向上に貢献できるよう、経済性も担保しつつ、持続可能な農業のスタイルを確立させていきたいと思っています。



Company Information

有限会社さんさん池見

住所 / 福井県福井市坂井市三国町池見115-1
事業内容 / 農業
創業年 / 2004年
代表者 / 代表取締役 大嶋裕一
従業員 / 3名
<https://www.sansanikemi.jp/>



会社ホームページ

農産物を自然栽培し、商品開発にも挑戦！

NPO法人 ハートオブマインド（鯖江市）

SDGsに貢献！

- ・無農薬・無肥料で育てた「オクラ」でオリジナル商品を開発
- ・広く市内外の人を対象に、自然栽培を実践的に学ぶ講座を開催



1. 「自然栽培 越前オクラ園」を立ち上げ開発したオクラスープ 2. チッソ肥料から発生するガスがオゾン層破壊の要因との研究発表もある 3. さばえ自然栽培実践塾の様子

取り組みのきっかけ

10年前、就労業務として農業部門を立ち上げた際、障がい者の健康を考え、無農薬・無肥料で野菜作りを始めました。その後、2016年に自然栽培を実践するグループに出会い、全国の仲間と共に学ぶ中でSDGsのカードゲームを体験し、農業にもSDGsの目標に合致することがいくつもあると気づきました。その目標が「飢餓をゼロに」「人々に保健と福祉を」「気候変動に具体的な対策を」「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさも守ろう」でした。

特に注力しているSDGsの取り組み

自然栽培による野菜作りを行う中で、障がい者の方々の賃金アップを図ろうと、収穫した農産物に付加価値をつけた商品づくりを模索。自然栽培が比較的容易なオクラを、障がい者たちが苗づくりから移植、収穫、加工まで手掛け、「オクラスープ」が完成しました。県内の道の駅などで販売するとともに、化学調味料無添加の商品も開発。また、自然栽培を多くの方に学んでいただこうと、鯖江市の支援を受け、「さばえ自然栽培実践塾」を開催しています。

担当者の思い

山田 善宣さん

SDGsには農業にも合致する目標があると気づき、農産物を加工して商品を開発する道も見えてきました。「オクラスープ」の開発では、パッケージデザインをお願いしたデザイナーさんとの交流も生まれました。「さばえ自然栽培実践塾」は、安心・安全で環境に配慮した栽培を学びたいと、鯖江市外の方も参加されています。



Company Information

NPO法人 ハートオブマインド

住所 / 福井県鯖江市丸山町4-301-2
 事業内容 / 障がい者就労支援
 創業年 / 2012年
 代表者 / 理事長 山田 善宣
 従業員 / 90名
<https://www.npo-heartofmind.com/>



会社ホームページ

社員の健康づくりに尽力。次世代の人材育成も

株式会社 長田工業所（坂井市）

SDGsに貢献！

- ・溶接体験や工場見学で若手人材を創出
- ・社員の心と体を健康にする様々な取り組みを実施



1.小学生の溶接体験学習の様子 2.健康や安全などをテーマにした朝イチ研修 3.福利厚生として置き型社食「オフィスおかん」を導入。

取り組みのきっかけ

当社をはじめとする全国の中小零細鉄工所は職人の高齢化や若手人材不足などに悩んでいます。ものづくりの若手人材創出を目指して、2015年に鉄や溶接について楽しく学べるテーマパーク「アインプラネット」を立ち上げました。社員が子どもたちに溶接やクラフトづくりを教えています。また、総務の社員が前職でメンタルヘルスの不調を経験し、メンタルヘルスの大切さを実感したことから、「心の健康づくり推進計画」を外部指導のもと立案しました。これらがきっかけになり、SDGsにつながる様々な取り組みが始まりました。

特に注力しているSDGsの取り組み

「アインプラネット」はフランチャイズ化し、全国に広がっています。工場は「整理・整頓・清掃・清潔・躰」の「5S」に取り組んでおり、見学を受け入れています。また、社員の健康を考え、朝イチ研修、メンタルヘルスチェック、置き型社食「オフィスおかん」の導入、時間外労働時間や有休残数の見える化などを実施しました。さらに、経営理念や行動指針を記載した「おさだフィロソフィー手帳」を作成。これを軸に社員が自発的に取り組んでいます。

担当者の思い

代表取締役 小林 輝之さん

「アインプラネット」は若手人材の創出につながり、5S活動によって作業効率の良い清潔な鉄工所になりました。また、社員の健康を考えた取り組みを続けたことで、「ふくい健康づくり実践事業所」に認定され知事賞も受賞。さらに「健康経営優良法人2023（中小規模部門）」の上位500社の称号であるプライト500に認定されました。



Company Information

株式会社 長田工業所

住所 / 福井県坂井市春江町西長田41-1-1
事業内容 / 建設業・製造業
創業年 / 1991年
代表者 / 代表取締役 小林輝之
従業員 / 20名
<https://www.osadaindustry.com>



会社ホームページ

誰もが働きやすい職場環境を整備

株式会社 日本エー・エム・シー（福井市）

SDGsに貢献！

- ・ダイバーシティ推進、働き方改革、健康経営を三位一体で取り組む
- ・女性活躍推進プロジェクトチーム「ツギテラス」を発足



1.北海道の社員旅行に家族も含め237名が参加 2.「ツギテラス」企画の梅シロップ作り体験 3.職場環境向上の取り組みが様々な認定を受けている

取り組みのきっかけ

SDGsが注目されるようになった2017年頃から、当社が取り組む方針を打ち出しました。それは、企業の持続的な発展には利益拡大のための生産性向上の推進が必要であり、そのためにはまず、従業員が健康的に働くことができる安全で安心な職場環境が大切だという考え方にもとづいています。ダイバーシティ推進、働き方改革、健康経営を三位一体で取り組み、誰もが働きやすい職場環境を実現することで企業価値の向上を目指しています。

特に注力しているSDGsの取り組み

ダイバーシティ推進として、社内に女性活躍推進プロジェクトチーム「ツギテラス」が発足し活動することで、女性活躍の場が広がっており、障がいのある従業員には、県内でもまだ少ない企業在籍型ジョブコーチ（※）を配置し、定期的な面談で就労支援を行っています。また、働き方改革では、業務が属人化しないよう徹底した多能工化を進めること等により、2019年以降は男女とも育児休業取得率100%となっています。さらに、健康経営の取り組みとしては、健康づくり担当者が、健康診断の再検査対象者に受診勧奨を行っているほか、禁煙を推進しています。

（※）企業在籍型ジョブコーチ：企業に在籍しながら、企業内の障がいのある従業員が職場適応できるよう、様々な支援を行う

担当者の思い

総務部総務課 平瀬 布美代さん

誰もが働きやすい職場環境作りに取り組むことで、社員みんながいきいきと働くことができていると感じています。男女ともに育児休業を取得するのが当たり前という文化ができていのに加え、家族も参加できる社員旅行やイベント、社報などによって家族の顔が見えるので、会社全体で子育てをしているような気持ちになっています！



Company Information

株式会社 日本エー・エム・シー

住所 / 福井県福井市市波町13-8
事業内容 / 高圧配管用継手の製造および販売
創業年 / 1963年
代表者 / 代表取締役 北川浩文
従業員 / 184名
<https://www.j-amc.co.jp/>



会社ホームページ

地域の人々と協働し、交通安全などの社会貢献活動を推進

株式会社アイシン福井（越前市）

SDGsに貢献！

- ・交通事故ゼロのまちづくりを目指し「生命のメッセージ展」を開催
- ・「カーブミラー清掃」など、地域の安全・安心を守る活動を展開



1. 飲酒運転や交通事故の犠牲者ゼロを願う「生命のメッセージ展」 2. 恒例のカーブミラー清掃活動 3. 交通安全啓蒙活動の様子

取り組みのきっかけ

当社は、自動車部品メーカーのアイシングループの一員として、「豊かな社会づくり」「持続可能な社会の実現」に貢献する企業活動を実践しています。中でも、創業以来40年にわたり事業活動の地である福井の豊かな自然を保護することと、地域社会との調和を重視しています。そして、50年、100年先も社会と福井の皆様が必要とされ、社員一人ひとりが幸せになれる企業であり続けるために、SDGsの推進およびサステナビリティ経営に取り組んでいます。

特に注力しているSDGsの取り組み

社会貢献活動に積極的に取り組み、①地元・地域との協働活動、②夢のある青少年育成、③自然環境保護活動を基本にしています。また、自動車部品メーカーとして交通事故のない安心・安全なまちづくりを目指し、地域・行政との連携により、交通事故などで大切な人を失った遺族の思いを伝える「生命のメッセージ展」を越前市内で開催。さらに、地域での「カーブミラー清掃活動」「通学路の保全活動」「児童の見守り活動」などにも注力しています。

担当者の思い

総務部 畠山 靖彦さん

地域や行政の方のご理解とご協力を得て交通安全活動を継続的に実施し、その輪が広がっています。この影響で、社員の自動車部品メーカーの一員として自覚や交通安全意識が醸成されていると感じます。これらの活動をSDGsと紐づけて発信し、社員一人ひとりが「社会のために何ができるか」を考え、行動することにつながっていきたいと思います。



Company Information

株式会社アイシン福井

住所 / 福井県越前市池ノ上町38
事業内容 / 自動車部品製造
創業年 / 1983年
代表者 / 取締役社長 立松敬朗
従業員 / 2835名
<https://www.aisin-fukui.co.jp>



会社ホームページ

心と体の健康づくりをサポート

養生デザイン (敦賀市)

SDGsに貢献!

- ・「10年先も健やかなココロとカラダ」をコンセプトに様々な活動を実施
- ・イベント出展や出前授業でSDGsを啓蒙



1.ふくいSDGsフェスに参加した際の様子 2.SDGsが身近になるような取り組みを実施 3.健康とSDGsを掛け合わせてウェルビーイングを実現

取り組みのきっかけ

2017年の創業当時から「10年先も健やかなココロとカラダを」のビジョンを持ち、養生デザインの活動に取り組んできました。自分に合わせた健康づくりを大切に、季節や体調に合わせた食事をとったり体を動かしたりする養生的な視点で、健やかなココロとカラダをサポートしています。それらに加え、コーチングやカウンセリングも行う私たちの取り組みは、SDGsゴールと連動する部分があると考え、パートナーに登録しました。

特に注力しているSDGsの取り組み

「あなたがしているSDGsは?」「自分の町が取り組むSDGsは?」とみなさんへ問いを立て、SDGsや健康が自分ごとになるように取り組んでいます。一例として「ふくいSDGsフェス」や「若狭町ツーデーマーチ」などイベント出展を積極的に行い、SDGsと暮らし・健康のつながりを啓蒙しています。また、総合学習や探究学習に協力し、生徒のみなさんの取り組みとSDGsの関連性への理解が深まる特別授業なども行っています。

担当者の思い

青木 優加さん・山中 雄大さん

自分たちの取り組みはSDGsではどれになるか?を改めて考えると、複数のものにつながるの感じが生まれ、取り組みの幅を広げて考えられるようになりました。また、福井県が取り組む幸福実感度の向上にもSDGsが役立つと考え、「健康×SDGs=ウェルビーイング」という私たちの展望を明確にすることができました。



Company Information

養生デザイン

住所 / 福井県敦賀市神楽町1-4-8
 事業内容 / 健康カウンセリング
 創業年 / 2017年
 代表者 / 青木優加・山中雄大
 従業員 / 2名
<https://yojo-design.com/>



会社ホームページ

最新テクノロジーで、みんなの教育を支援

株式会社アフレル（福井市）

SDGsに貢献！

- ・子どもたちが男女の区別なく、テクノロジーを体験できる機会を提供
- ・持続可能な地域社会を目指し、産学連携で次世代人材の育成に注力



1. ロボットを使ったプログラミング体験型ワークショップ「ロボ・キャンプ」を開催 2. 母娘を対象としたプログラミング体験教室 3. 教育機関向けプログラミングサミットの様子

取り組みのきっかけ

私たちは、すべての人々が男女の区別なく、テクノロジーについて学ぶ機会を選択できるようにすることが多様な才能を育む支援となり、未来の社会をより良くする鍵になると確信しています。福井県では、大都市圏に比べて子どもたちがテクノロジーに触れる機会が多くないことから、性別に関わらずテクノロジーに触れて興味を持てるように、プログラミングやロボット制御、AI体験イベントを、時代に合わせた内容で20年以上開催してきました。

特に注力しているSDGsの取り組み

最新のテクノロジー、特にAIやロボット技術を駆使し、ソフトウェアの開発過程や教育効果を「見える化」するなどの新しい教育サービスを、全国の企業、教育機関、アフタースクール、ご家庭に提供しています。学びの成果を発表する場として、各種ロボコンやコンテストを開催するのに加え、ロボットを活用した学びの場づくりも行っており、2018年にはアフリカ・タンザニアの女子中学校でプログラミングのワークショップを実施しました。

担当者の思い

代表取締役 共同CEO 柏崎 暁子さん

教育サービスを通じて地域や社会に貢献できていた実感を持つことができました。社員がSDGsを意識し、自社事業を客観的に見つめることで、お客様やパートナーとの信頼関係が深まり、新たな事業創出にも良い影響を与えていると考えています。今後も、社会にどのような影響を与えていけるかを考え、真摯に取り組んでいきます。



Company Information

株式会社アフレル

住所 / 福井県福井市中央3-5-15 フロンティア福井5F
事業内容 / 教育支援サービス、産業用ソーシャル・

ロボット適用サービス

創業年 / 2006年

代表者 / 小林 靖英

従業員 / 30名

<https://afrel.co.jp/>



会社ホームページ

建設業の役割を伝え、次世代育成や地域に貢献

OKUTAKE GROUP (奥武建設工業株式会社・株式会社オクタクエ・株式会社高洋建設) (福井市)

SDGsに貢献!

- ・体験や交流を通して建設現場のリアルを発信
- ・安心して暮らせるまちづくりを実践



1.福井ユナイテッドアカデミーチームとの交流試合にて 2.福井農林高校SDGs推進チームと奥村代表 3.カーブミラー清掃は年2回実施

取り組みのきっかけ

「次世代育成の一助に」との思いから、働く車体験イベントや、建設業に関する高校生との意見交換会、協賛しているサッカーの中学生チーム「福井ユナイテッドアカデミー」との交流を実施しています。近年は、これらの活動の中にSDGsの視点を取り入れようと、福井農林高校のSDGs推進チームにタイアップを依頼。学生と一緒にSDGsを考えることで、社内外での取り組みの幅が広がりました。また、10年前から続けているカーブミラーの清掃は、建設機械の運転手の安全確認と、人々が安心して暮らせるまちづくりが目的です。

特に注力しているSDGsの取り組み

福井農林高校の生徒さんに、当社の新年度総会で「SDGsとは何か」についてレクチャーしていただき、社員の理解が深まりました。「福井ユナイテッドアカデミー」と当社の外国人労働者チームとの交流試合では、SDGsのカードゲームやクレーン車体験などの時間を設け、国際交流、学び、体験の機会を提供しています。このようなイベントを通して、次世代育成や地域づくりを継続していきます。

担当者の思い

管理部 統括部長 丹後博さん

以前から若手社員や女性社員の育成に取り組んでいますが、SDGsについて学ぶことで社会性や自主性がさらに高まり、現場の清掃作業や事故防止対策を率先して行うなど働く環境に目を向ける社員が増えています。また、作業用ヘルメットなどに貼っているSDGsのシールは、社員の意識啓発と社外への情報発信になっています。



Company Information

OKUTAKE GROUP

住所 / 福井県福井市大東2-1-5
事業内容 / 総合建設業
創業年 / 1977年
代表者 / 代表 奥村 高志
従業員 / 90名
<https://okutake.jp>



会社ホームページ

ものづくりによる地域交流と環境問題にチャレンジ

トンカン テラス
TONKAN terrace (福井市)

SDGsに貢献!

- ・木工作业など“ものづくり”で子どもの学びを支援し、交流の場を提供する
- ・海ごみから元の製品以上の価値がある物を作るアップサイクル活動を実践



1. 工房でのものづくり体験を楽しむ子どもたち 2. 学校へ出向きプラスチックごみ問題の授業を実施 3. イベントでリサイクル製品を販売

取り組みのきっかけ

前職で培ったプラスチック製品の設計開発のスキルと地域交流を掛け合わせ、ものづくりを通してあらゆる人が集い交流する場所、小さなことでも自分の「やりたい」を実現できる場所をつくりたいと思いました。また、プラスチックリサイクルの仕事の経験から思い立ったのが、地域のごみ問題に取り組む活動です。福井でも社会問題になっている「海ごみ（海洋プラスチックごみ）」を使い、環境リサイクル、消費行動の啓発活動を実践しようと考えました。

特に注力しているSDGsの取り組み

子どもも大人もものづくりに取り組める工房を運営し、3Dプリンターやレーザーカッターなどのデジタル工作機器によるものづくりを広めながら、イベント出店、3Dプリンター講習などを展開。DIYなど木工作业の支援も行っています。また、若狭湾に漂着する海ごみを地元団体と共に原料化し、新しい製品にして販売しています。この過程を体験できるワークショップのプログラムも制作し、楽しみながら環境意識を高める活動を進めています。

担当者の思い

代表 黒田 悠生さん

事業開始以来、さまざまな個人、団体、教育機関、企業からお問い合わせいただき、さらに一緒に活動する企画につながるなど、ものづくりや環境への関心が高まっていると感じています。今後も地域活性化の拠点として、たくさんの方にもものづくりを楽しんでいただける場所をご提供するとともに、環境活動に取り組んでいきます。



Company Information

TONKAN terrace

住所 / 福井県福井市高木中央1-1501
事業内容 / 3Dプリンターなど工作機器が使える
ものづくり工房の運営
創業年 / 2021年
代表者 / 代表 黒田 悠生
<https://tonkanterrace.com/>



会社ホームページ

廃木材を資源としてリサイクル

有限会社 ニューチップ運送（越前町）

SDGsに貢献！

- ・様々な木材を回収し、原料や燃料となる木質チップに加工
- ・林業教室や工場見学など、SDGsをリアルに学べる場を提供



1. 社員全員が参加したSDGs勉強会 2. 林業教室には地域の子どもたちが参加し、木材伐採について学んだ 3. 林業教室では木材リサイクルの現場も見学。

取り組みのきっかけ

1959年に木質チップ製造業として創業し、SDGsという言葉ができる前から廃木材を資源として活かすリサイクル事業を行ってきました。自分たちの仕事そのものがSDGsであると改めて認識するきっかけとなったのが、SDGsについての勉強会です。社員全員でSDGsとは何？から学び、自分たちができていることを考えました。10年後、さらに100年後もお客様に選ばれる会社であり続けるためにSDGsに取り組んでいます。

特に注力しているSDGsの取り組み

当社は「ムダなものなんて、一つもない。」を合い言葉に、丸太材・木くず・パレット・枝葉・根など、様々な木材を回収・リサイクルしている会社です。木材の利用価値を高め、循環型社会に貢献できるように、技術や品質の向上に努めています。また、山の環境整備・保全、木材の活用を知ってもらうための取り組みも行っています。地域の子供たちを対象にした林業教室、当社のチップ工場や木の伐採現場を見学する体験会を実施しています。

担当者の思い

取締役 佐々木 正江さん

SDGsの勉強会を通して、私たちの仕事は社会に貢献し、子どもたちに誇れると認識しました。社員の意識が変わり、仕事に対する姿勢に大きな変化が生まれています。また、お客様からもSDGsにしっかりと取り組んでいる会社と取引したいと言われました。会社が存続していくためにもSDGsは不可欠だと感じています。



Company Information

有限会社 ニューチップ運送

住所 / 福井県丹生郡越前町織田7-13-1
事業内容 / 木質チップ製造
創業年 / 1959年
代表者 / 代表取締役社長 佐々木孝明
従業員 / 30名
<https://www.newchip-unso.com/>



会社ホームページ

美しい大野の星空を守る

大野市 阪谷小学校 (大野市)

SDGsに貢献!

- ・SSPP (Sakadani Star Point Project) のポイントカードの作成
- ・ポイントカードを大野市全戸に配布。アンケートの収集や情報発信にも注力



オオノ シティー スター
Ono-city Star
ポイント プロジェクト
Point Project

【ライトダウン問い合わせ先】
大野市役所 暮らし環境部 環境・水循環課
住所 〒912-8666 大野市天神町1-1
TEL 0779-66-1111 FAX 0779-66-1118
E-mail kankyo@city.fukui-ono.lg.jp

【カード問い合わせ先】
大野市阪谷小学校 5・6年生 7名
住所 〒912-0149 大野市伏石11-14
TEL 0779-67-1012 FAX 0779-67-1500
E-mail sakadani-sho@edu.city.ono.fukui.jp

【協力】 地域おこし協力隊 望月詩織

第4弾

R6年2月29日(木)までに
アンケートで取り組みの様子
を答えた方に、阪谷小児童
からプレゼント贈呈!



1. 大野市全戸に配布したポイントカード第4弾 2. 地域でプレゼンをし、カードを配る様子 3. プレゼン大会で最優秀賞をとり、市長、教育長を表彰訪問

取り組みのきっかけ

本校の5・6年生は、大野市が「星空保護区」認定を目指していることを新聞記事で知り、2021年度から星の学習や動画制作、発信活動を続けてきました。2023年度に校区である大野市の南六呂師が「星空保護区」に認定されたことをきっかけに、今後は星空が美しく見える環境を守っていくため、そして、市が実施している「ライトダウンイベント」の周知をもっと図るため、SSPP (Sakadani Star Point Project) を立ち上げました。

特に注力しているSDGsの取り組み

星空が美しく見えるためには「光害（ひかりがい）がなく暗いこと」「空気が澄んでいること」「星空を守る取り組みを続けること」が大事です。そのため、私たちは「光害対策」「脱炭素」「星空学び」の3つの視点で、具体的に取り組むべきことを示したポイントカードを作成しました。そのカードは、改良を重ねながら第4弾まで発行し、大野市全戸に配布しました。取り組みを広めるため、アンケートの集計結果を示したり、プレゼン動画やCMを作り発信活動を行ったりもしています。

担当者の思い

教諭 松山 奈美江さん

子どもたちが「自分事として環境を守るためにできること」を真剣に考え、行動を起こしたことが、保護者、地区住民、市全体、県内と徐々に広がりを見せ、地域、民間企業、行政とつながって活動できたことは、大きな成果でした。アンケートで、「環境について考えるきっかけになった」「いい取り組みだ」など、よい反響が得られています。



Company Information

大野市 阪谷小学校

住所 / 福井県大野市伏石11-14
事業内容 / 教育
創業年 / 1872年
代表者 / 校長 青木知代
児童数 / 23名
<https://sakadanisho.mitelog.jp>



学校公式ブログ

地域貢献の一助を目指した取り組み

坂井市立丸岡南中学校（坂井市）

SDGsに貢献！

- ・ふるさと地域活性化プロジェクトの実践
- ・縦割り活動（異学年交流）で『SDGs×南中ごと化』の実践



1. 全校生徒で地元海岸の清掃活動（三国サンセットビーチ） 2. ふくいSDGsパートナー登録企業への訪問 3. 自分たちの企画書について、地域や企業の皆さんにプレゼン

取り組みのきっかけ

本校の「総合的な学習の時間」の目標は、グローバル社会で必要なスキルを身につけること、福井の良さを再確認することで郷土愛をはぐくむこと、コミュニケーション能力や協働力を培うことです。これらを達成するために、様々な現代社会の課題に目を向けて、SDGsと関連づけながら視野を広げています。また、身近な課題から取り組むことで自らの問題として捉え、それらの解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことが大切だと考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

スクエア（異学年構成のグループ）ごとの校外研修で、地元の海岸清掃を行っています。また、SDGsパートナー企業を訪問し、地域の問題を学び、課題解決のためにできることを考え、グループごとに企画・調査を行っています。SDGsに貢献するために自分たちが率先してできる事を、地域や企業の皆さんにプレゼンを行うことで、生徒たちの実践力を高めています。

担当者の思い

本活動を通して、生徒自身が主体的に自分の住んでいる地域に対して「自分ごと」を実践できることができました。また、SDGsを切り口にして、各学年での学習の時間とスクエアでの学習の時間を組み合わせることで、教員の主体的かつ探究的な学習支援活動にも繋がりました。



Company Information

坂井市立丸岡南中学校

住所 / 福井県坂井市丸岡町高瀬15-2
事業内容 / 中学校
創業年 / 2006年
代表者 / 校長 上田裕明
生徒数 / 307名
<https://www.maruokaminami-j.ed.jp/>



学校ホームページ

学生と企業をつなぎ、地域を活性化

株式会社 TONOSAMA (福井市)

SDGsに貢献!

- ・学生と企業をつなぐサイトの運営などを通して県内学生をサポート
- ・様々な特別休暇制度を設けて仕事と家庭の両立を支援



1. 学生と企業をつなぐサイト「Fun More」 2. 厚労省ポータルサイトの事例集に掲載された特別休暇制度 3. ショッピングモール「エルパ」で開催された、高校生の探究活動ワークショップのサポート

取り組みのきっかけ

私がUターンして起業できたのは、高校卒業後に県内で就職し、若い頃に地元企業と関わりを持てたことが大きかったように思います。そうした経験から、学生時代に企業と関わることで地元企業への就職やUターンにつながると考え、創業時より年間を通して高校生、大学生インターンを積極的に受け入れました。また、シングルマザーの方など様々な社員が休みを取りやすい制度を設けるなど、ワークライフバランスの充実にも取り組んでいます。

特に注力しているSDGsの取り組み

地元企業の課題解決をテーマにした高校生の探究活動のサポートや出前講座、中学生の職場見学を積極的に実施しています。また、県内の学生と企業をつなぐサイト「Fun More (ファンモア)」を開設しました。支援を求める学生と、学生との交流を求める企業をマッチングするためのサイトで、会社の空きスペースを学生が活動する場所として提供したり、学生の相談対応など、多角的な支援を行うことで、交流を促進しています。

担当者の思い

代表取締役 **山本 昌平**さん

SDGsへの取り組みをホームページやSNSで発信することで、学生や学校からの相談が増えました。また、ファミリーサポート休暇や親孝行休暇といった当社の特別休暇制度が評価され、厚労省が運営する「働き方・休み方改善ポータルサイト」で紹介されました。当社の取り組みを参考にもらえることをとても嬉しく思います。



Company Information

株式会社 TONOSAMA

住所 / 福井県福井市西木田 2丁目10-28
 事業内容 / Webマーケティング、ホームページ制作、
 Webコンサルティング
 創業年 / 2012年
 代表者 / 代表取締役 山本昌平
 従業員 / 20名
<https://tono-sama.net/>



会社ホームページ

SDGsにつながる社内プロジェクトを地域の未来に活かす

福井キャノン事務機株式会社（福井市）

SDGsに貢献！

- ・性別、職種に関わらず活躍できる企業風土を通して地域社会に貢献
- ・女性社員がリーダーシップをとって「DX×SDGs」を目指す



1.マイボトルを持ったビジネスサポートチーム 2.お客様に健康リテラシー向上事例を紹介 3.女性活躍イベントで社の取り組みを紹介

取り組みのきっかけ

当社は、2014年から「女性活躍」「情報セキュリティ」「エコ活動」「健康経営」などの働き方改革に取り組んでいます。これらから得られたノウハウを社外に発信し、地域社会に貢献したいと考え、2020年6月に「ふくいSDGsパートナー」に参加しました。同時に、デジタル技術の活用を合わせた「DX×SDGs」というテーマを掲げ、社員のさらなる成長と持続可能な地域への貢献を目指し、企業価値の創出につなげていきたいと考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

ビジネスサポートチーム（事務部門）の女性社員が中心となって、ITツールを活用した業務の新しい仕組みづくりを行い、社内のワークフロー改善により大幅な業務効率化を実現しました。また「社員の健康リテラシー向上」や「社会人基礎力アップ」などのプロジェクトも推進しています。さらに、自治体や各種団体主催のセミナーへの講師・パネラーとしての登壇や、県内外の企業の視察受け入れなどを通して、社外への情報提供にも注力しています。

担当者の思い

代表取締役社長 岩瀬 裕之さん

ビジネスサポートチームのメンバーが主体的に取り組んできたさまざまな活動をSDGsと結びつけることで、持続可能な社会に貢献していることを実感しています。彼女たちは「DX×SDGs」を語る上でなくてはならない存在になりました。これからも「DX×SDGs」をテーマに、社員一人ひとりが仕事を通して地域社会に貢献していきます。



Company Information

福井キャノン事務機株式会社

住所 / 福井県福井市南四ツ居2-1-4
 事業内容 / 事務機器及びIT/ネットワークソリューション等の販売保守
 創業年 / 1973年
 代表者 / 代表取締役社長 岩瀬 裕之
 従業員 / 58名
<https://www.fukuicanon.co.jp>



会社ホームページ

女性リーダーの育成をサポート

公益財団法人 ふくい女性財団（福井市）

SDGsに貢献！

- ・女性社員の成長と仕事に対する意欲向上の取り組みを進める企業をサポート
- ・社外メンターを派遣し、キャリアの疑問や不安などを解決するヒントを提供



1. 社外メンター導入の案内 2. 社外メンターとの1on1ミーティングの様子 3. グループでのメンタリング風景（イメージ）

取り組みのきっかけ

日本は、女性が管理的職業に従事している割合が低い傾向にあり、2023年の世界ジェンダー・ギャップ指数は韓国、中国よりも低い125位と先進国の中でも最低レベルです。その日本の中でも福井県は、女性の就業率が全国2位（2020年「国勢調査」）と高い一方、管理職の割合は41位と低く、女性が仕事の意思決定を行うポストに携われない現状にあります。このため、当財団では、女性のキャリアアップ意欲を向上させるための取り組みを行い、女性リーダーの育成をサポートしています。

特に注力しているSDGsの取り組み

当財団では「社外メンター導入事業」を行っています。「メンター」とは「豊富な知識と職業経験を持っている先輩」を指します。県のリーダー養成研修を修了し、社内で女性活躍を牽引してきた女性に、社外メンターとしての活動をお願いしています。この社外メンターを県内企業に派遣し、「職場にはロールモデルがおらず今後のキャリア形成が不安だ」、「後輩の育成方法が分からない」といった、働く女性のキャリアの疑問や不安などを解決するヒントを提供しています。

担当者の思い

専務理事兼事務局長 **江端 美喜子**さん

社内の上司や先輩から得られることは多いと思いますが、他企業で活躍する社外メンターとも接することで、多様な考えや生き方を知り、キャリアの視野や可能性を広げる効果が期待できます。社外メンターの派遣を通して、県内で働く女性が成長し、社内でいきいきと活躍できるようサポートしたいと考えています。



Company Information

公益財団法人 ふくい女性財団

住所 / 福井県福井市下六条町14-1 福井県生活学習館内
事業内容 / 県内女性の自立および社会参加の促進支援
創業年 / 1995年
代表者 / 理事長 田村洋子
従業員 / 16名
<https://www.f-jhosei.or.jp/>



法人 ホームページ

多くの人にSDGs活動を楽しく学べる機会を

鯖江市

SDGsに貢献!

- ・SDGs活動のきっかけづくりとなるイベントの実施
- ・ジェンダー平等推進を軸とした取り組みの働きかけ



1. さばえSDGs部のミーティング 2. めがねのまちさばえSDGsフェス 3. 明治大学の留学生フィールドワーク

取り組みのきっかけ

鯖江市はものづくり分野を中心に内発的に発展し、成長を遂げてきたまちです。その発展を支えたのは、女性の活躍、イノベーションを繰り広げてきた市民性、一人ひとりが主役になれる地域風土です。鯖江市が50年後、100年後と将来にわたって成長し、持続可能なまちづくりを進め「誰一人取り残さない」社会を実現するため、国連で採択された国際目標「SDGs」の理念に賛同し、市民や経済界、市民団体、大学などと協働で取り組んでいます。

特に注力しているSDGsの取り組み

2020年9月に「さばえSDGs推進センター」がオープンし、SDGs活動の拠点として研修会などの各種事業を展開しています。2023年度には、113回（3889人）の研修会を開き、イベントでは第2回「めがねのまちさばえSDGsフェス」を開催しました。SDGsフェスでは、企業・団体を会員とする「さばえSDGsグローバルクラブ」や、SDGsに興味のある学生が主体となって活動している「さばえSDGs部」なども参加し、多くの方がSDGsを楽しく学べる機会を作っています。

担当者の思い

さばえSDGs推進センター 毛利 ちはるさん

SDGsへの取り組みや、情報発信を通じて、さまざまな企業・団体との関わりができました。鯖江市のSDGsの取り組みについて、国内だけでなく外国からの視察などもあり、さらに多様な価値観に触れることができ知見が広がります。このような経験をまた広く発信し、たくさんの人を巻き込んでSDGs推進に取り組んでいきたいです。



Company Information

鯖江市

住所 / 福井県鯖江市西山町13-1
事業内容 / 地方公共団体
創業年 / 1955年
代表者 / 鯖江市長 佐々木勝久
従業員 / 405名
<https://www.city.sabae.fukui.jp/>



ホームページ

女性が働きやすい職場づくりに尽力

株式会社 平田不動産（小浜市）

SDGsに貢献！

- ・女性の健康課題に向き合い、社内の意識向上と福利厚生の実践に取り組む
- ・取り組みの成果を交流会で発信。自社でも環境美化のイベントを開催



1. 住み続けられるまちづくりをテーマにした勉強会を小浜市のカフェ「金四郎」で開催 2. 福利厚生の充実で女性社員の働きやすさを向上 3. 小浜市の海岸をきれいにするイベントで、海ゴミをアップサイクルしたビーズストラップ

取り組みのきっかけ

当社代表が、女性特有の健康課題を解決する「フェムテック」という言葉を知り、女性のヘルスケアの重要性に気づいたことがきっかけです。生理や更年期など女性の悩みを社員が知ることから始め、生理休暇や更年期障害治療費の補助など、福利厚生の実践に取り組みました。当社の主力事業である不動産業は、人の住まいに寄り添う仕事です。女性の発想力や気づきが事業発展のカギであり、環境整備によって活躍の機会が増すと考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

女性のからだ理解を推進するため、フェムテック検定3級の受講し、社員全員が取得しました。2級の受講料は会社が補助し、7名が取得済みです。管理職は6名中4名が女性で、男女比均衡にも取り組んでいます。福利厚生では、生理休暇を当日取得できるほか、本人と家族を対象に低用量ピルやホルモン補充療法の費用を補助しています。また、SDGsをテーマにしたイベントも積極的に開催しており、地元カフェとコラボした勉強会や海岸の清掃活動を行いました。

担当者の思い

社内の雰囲気明るくなりました。意思疎通の機会が増え、若い社員から意見が出やすくなったように感じます。また、女性の健康を考える団体から表彰や認定を受け、当社代表がSDGsをテーマにした交流会などで発表する機会が増えました。こうした活動が会社の認知度向上につながり、就活生からの問い合わせも増えています。



Company Information

株式会社 平田不動産

住所 / 福井県小浜市四谷町9-18
事業内容 / 不動産事業、ライフサポート

創業年 / 1983年
代表者 / 代表取締役社長 平田稔
従業員 / 21名

<https://www.hiratafudousan.com/>



会社ホームページ

海外の水問題に正面から向き合う

テラオライテック株式会社（越前市）

SDGsに貢献！

・アジア・アフリカを中心に
水と衛生の問題を抱える地域の自立的課題解決を支援



1.カンボジアに設置した井戸から水を汲み上げる様子 2.ウズベキスタンでは排水処理事業を展開 3.衛生教育の実践（ブータンの手洗い場）

取組みのきっかけ

水道などの設備工事を本業とする企業として水問題に着目し、水道や衛生的環境が整備されていない地域を支援しようと検討した結果、アジア・アフリカなど海外が舞台となりました。活動に先立ち現地を訪問して見えてきたのは、「必要な人に必要な支援が届いていない」「現地生活者の自立心の喪失」といった課題です。これらを持続可能な形で解決するには、一時的・一方的な支援ではなく、根本的・継続的な支援が必要と考えました。

特に注力しているSDGsの取組み

最終目標は、現地の人々だけで安定した生活や産業を維持できることです。そのために、新たに食用淡水魚の養殖事業を行う現地法人を立ち上げ、雇用を創出するとともに、事業収益をまちのインフラ整備に回しています。さらに、インフラ整備に必要な技術習得のために、現地の人々が日本で数年間研修を受け、母国の事業に従事する仕組みも作りました。「持続可能」を原則に、関わるすべての人と組織がWin-Winになることを意識しています。

担当者の思い

代表取締役会長 寺尾 忍さん

社会課題の解決はもちろん、近年は、SDGsと本業をより密接に結び付けることで、脱炭素関連の新たな事業に踏み出すなど、会社に大きな変化をもたらしました。企業価値が向上し、新規顧客の獲得にもつながっています。これからも視野を広く持ち、企業にとってメリットになるSDGs活動を考え、ゴールにコミットしていきます。



Company Information

テラオライテック株式会社

住所 / 福井県越前市本保町8-5-1
事業内容 / 総合設備工事業
創業年 / 1966年
代表者 / 代表取締役社長 寺尾 剛
従業員 / 50名
<https://www.teraolitech.jp/>



会社ホームページ

有機米作りで、環境浄化を推進

株式会社 田んぼの天使（越前町）

SDGsに貢献！

- ・環境浄化力のある有機肥料で米作りを行い、豊かな生態系の復活を推進
- ・田んぼの生き物とふれあうイベント等、啓蒙活動にも積極的に取り組む



1. 毎年開催している「生き物虫観察会」 2. 地元小学校の児童と共に、学校給食に使う有機米の補植作業を行った様子 3. 2024年7月「田んぼの天使」が中心となって設置した巣塔でコウノトリのひなが誕生

取り組みのきっかけ

1992年より自然再生や安全安心な米作りを掲げて実践していますが、ここ数年、自然環境の急激な変化を感じていました。そんな折、2023年8月には国連のグテーレス事務総長が「地球沸騰時代」に入り、加速化していると宣言。未来の分岐点といわれる2030年に向けて大きな変革の必要性を感じ、未来を担う子供たちのために大人たちが成すべき事業を、多くの企業や諸団体と知恵を出し合い、連携しながら推進したいと考えました。

特に注力しているSDGsの取り組み

自社で製造した有機肥料（米ぬかや魚粉などを、乳酸菌や酵母菌をはじめとした有用微生物（EM）で長期発酵したもの）を用いて、有機米「田んぼの天使」を栽培しています。有用微生物群には環境浄化力があり、田んぼの水が川から海に流れることで豊かな生態系の復活につながります。虫やメダカ、コウノトリなど多くの生き物と共に育つ有機米は、保育所や学校の給食として納入しています。また、「生き物虫観察会」や田植え、稲刈りイベントも開催しています。

担当者の思い

代表取締役 井上 高宏さん

SDGsパートナーとの交流で、命を支える農業の大切さについて、産業の枠を超えて伝えることができ、経済活動の根底に切り込んでいける自信を持ってました。生き物は多様ですが地球は一つです。今を生きる大人が成すべきことは、様々な社会的差異を乗り越え、未来を担う子どもたちに明るい希望を遺していくことだと実感しています。



Company Information

株式会社 田んぼの天使

住所 / 福井県丹生郡越前町江波86-27

事業内容 / 農業

創業年 / 2019年

代表者 / 井上 高宏

従業員 / 7名

<https://www.tanbonotensi.jp/>



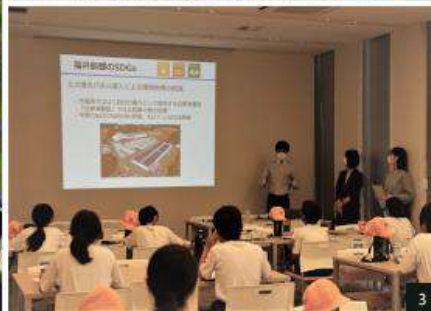
会社ホームページ

SDGsの取り組みで、働きがいのある社風を実現

福井鋌螺株式会社（あわら市）

SDGsに貢献！

- ・環境に配慮した製品開発やCO2排出削減などの具体的な数値目標を設定
- ・SDGs事務局を設置し、社員のアイデアを積極的に取り入れた活動を展開



1.細呂木事業所（あわら市）に設置した太陽光発電設備 2.海と渚のクリーンアップ活動に参加 3.地元小学校の工場見学时にSDGsの取り組みを紹介

取り組みのきっかけ

欧州企業をはじめとするグローバル顧客より「脱炭素」への対応が問われるようになったため、当社の基幹技術である冷間鍛造技術（※）を活用し、金属廃棄量などを削減できる新製品開発によるCO2排出削減を進めてきました。さらに、SDGsの17の目標を踏まえた取り組みと、全ての社員がのびのびと個々の能力を発揮して働ける職場環境の整備などを目標にSDGs事務局を設置。これを機に、社内外における具体的活動を活発に展開しています。（※）材料（金属）に熱を加えず常温のまま圧力を加えて、金属を変形させながら成形をおこなう加工方法

特に注力しているSDGsの取り組み

経営方針に「2030年までにカーボンニュートラルを目指す」などの挑戦的目標を設定し、社内外の意識向上を図っています。2021年には、自家消費型では北陸最大級の太陽光発電設備を細呂木事業所に設置し運用を開始しました。小学生から大学生まで工場見学を受入れるなど、次世代育成に寄与する取り組みも実施しています。また、SDGs事務局の活動を「SDGsかわらばん」として年4回発行の社内報に掲載し、社員への周知に努めています。

担当者の思い

佐孝 宗浩さん

社内外にSDGsの勉強の機会を設けたことで、環境や社会の未来に対する社員の意識が高まりました。さらに自分が働く会社が、自身と家族のみならず、地域社会や国際社会まで影響を与える先進的企業であると一層認識できるようになり、当社で働くことに対する一人ひとりの自信と誇り、満足度につながっていると感じています。



Company Information

福井鋌螺株式会社

住所 / 福井県あわら市山十楽1-7
事業内容 / 精密鍛造パーツ等製造・販売
創業年 / 1959年
代表者 / CEO代表取締役社長 打本 幸雄
従業員 / 569名(2021年12月)
<https://www.byora.co.jp/>



会社ホームページ

SDGsを体現するレストランを開店

エイティーンスコーポレーション株式会社（越前市）

SDGsに貢献！

- ・間伐材を調理の熱源として積極的に活用
- ・地域の伝統工芸とコラボしたレストランをオープン予定



1. レストランの外観イメージ 2. 越前打刃物のメーカー「高村刃物製作所」のナイフをカトラリーとして使用 3. 越前焼の坏土（はいど）施設を見学するレストラン開発メンバー

取り組みのきっかけ

金属加工や電子部品加工に携わる当社では、2023年1月、地元である越前市にワイナリーを開設しました。2024年春にはワイナリーの近くにレストランもオープン予定。基本的な調理の熱源として、耕作放棄地をワイン畑に開墾する際に出た木材や、森林保護の過程で出る間伐材を積極的に活用。さらに、ぶどうの搾りカスの再利用・商品化（パン生地やジュースへ）などSDGsに貢献したいと考えています。また、レストランには太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーも活用して運営を行う予定です。

特に注力しているSDGsの取り組み

薪・炭を熱源とするオープンなどを組み合わせた火力ユニットを自社開発し、化石燃料に頼らない高級料理レストランの運営を目指しています。また、火力ユニットで生じる「灰」は自社の畑や契約農家の畑にまいて有効活用したり、越前焼の釉薬として使われる予定です。当社がある越前市には、「越前打刃物」「越前焼」「越前漆器」「越前和紙」「越前筆筒」という素晴らしい手仕事の文化があり、これらをレストランのいたるところに取り入れます。

担当者の思い

レストランマネージャー 劔持 和代さん

レストラン開業は来春なので具体的な変化はまだこれからですが、基本的な調理「煮る・炊く・焼く・蒸す・燻す・ローストする」を薪火・熾火・炭火で行う料理への期待の声をいただいています。また、越前市の伝統工芸の魅力を発信する場として関係者からの期待は高いと感じており、オープンに向けて協力体制は日に日に強まっています。



Company Information

エイティーンスコーポレーション株式会社

住所 / 福井県越前市庄町25字1
事業内容 / 製造業
創業年 / 2015年
代表者 / 代表取締役 橋本智之
従業員 / 20名
<https://18th-group.com>



会社ホームページ

事業活動を通じてSDGsに取り組む

富士フイルムBI福井株式会社（福井市）

SDGsに貢献！

- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進で持続可能な社会を実現
- ・未来を創る福井の子どもたちを支援



1. DXを体感できるDocuWorks教室 2. 小学校でのペーパーレス体験出前授業 3. 福井県ゆかりの人物、杉田玄白が出版した解体新書の複製版

取り組みのきっかけ

当社は、働く人の生産性向上と創造性発揮を支援するソリューション・サービスの提供をすすめています。DXが注目を浴びる中、業務プロセス全体を俯瞰しながら、お客様や業務ごとに最適なデジタル化を提案し、生産性向上や創造性の発揮、情報セキュリティリスクへの対応をお手伝いしています。事業活動にSDGsの考え方を取り込むことにより、持続的なビジネスの成長やイノベーションの創出に貢献できると考え、SDGsへの取り組みを開始しました。

特に注力しているSDGsの取り組み

SDGsを達成するツールとしてDXを推進しています。県内法人企業に対し、複合機とDocuWorks（※）を活用したペーパーレス提案やそのための環境構築支援を実施し、売上の一部を植樹活動に充てています。また、富士フイルムのデジタル印刷技術と特殊トナー、特殊用紙対応により、古文書などの伝統文書を複製・復元する社会貢献活動を推進。“遠くから見るだけ”から“手で触れる”伝統文書を提供することにより、質の高い教育・技術革新・地方創生などに貢献しています。（※）電子文書と電子化した紙文書を一元管理するオフィス向けソフト

担当者の思い

S&S営業部 部長 山村 哲也さん

若手社員を中心とした推進タスクチームを結成し、自分達にできることから取り組みを始めました。取り組みを周知するための社内報作成やワークショップを実施、SDGsのために新たに特別なことを始めるのではなく、普段の事業活動とSDGsとの繋がりを見つけることで、よりSDGsを身近に感じることができるようになりました。



Company Information

富士フイルムBI福井株式会社

住所 / 福井県福井市板垣5-904
事業内容 / 情報機器卸売業
創業年 / 1982年
代表者 / 代表取締役社長 古川 利正
従業員 / 94名
<https://www.fujifilm-fbfukui.com>



会社ホームページ

雇用創出と地域活性化に貢献

山惣ホーム株式会社（高浜町）

SDGsに貢献！

- ・遊休地を活用して杜仲の木を栽培。高齢者の雇用を創出
- ・製造・販売する杜仲茶を地元名産としてPRし、地域活性化に貢献



1. 県内外のイベントで杜仲茶の試飲と販売を実施 2. 栽培・製造・販売をしている「青葉の杜仲茶」 3. 杜仲の葉を収穫する様子

取り組みのきっかけ

当社は創業以来、建築・土木を中心に地域の発展に貢献することを使命として活動してきました。新たに、旅館業・飲食業・農業分野への事業展開を行っており、2019年に農業部を立ち上げました。従業員の高齢化に伴い廃業に追い込まれた「杜仲茶生産組合」の事業を継承し、耕作者がいなくなり荒地となった田畑を利用して杜仲の苗木を植え、栽培・製造・販売をするようになりました。この取り組みはSDGsの理念に即していると考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

遊休地の造成、杜仲の苗木の育成・栽培・製造・販売を一貫して行う中で、農地の草刈りや苗付け・収穫などシーズンの作業は地元の高齢者を雇用し、働きがいのある仕事の推進に取り組んでいます。また、杜仲の木は高浜町の町木で、杜仲茶は健康茶としての魅力があり、地域活性化に貢献する可能性を秘めています。「高浜町名産の杜仲茶」としての認知度アップを図るため、県内や他府県のイベントなどに積極的に参加してPR活動を行っています。

担当者の思い

農業事業部部长 森田 茂樹さん

苗木から育てた杜仲の木は、2023年時点で9000本近くになり、収穫量も年々増えています。本社のまわりなど、かつては荒地だった田畑が、杜仲の木で緑一色になる風景は絶景です。また、地元の保育園や幼稚園に通う園児たちが杜仲茶を飲む機会ができたり、工場見学の依頼があるなど、地元民の関心が高まっていることをうれしく思います。



Company Information

山惣ホーム株式会社

住所 / 福井県大飯郡高浜町中山50-22-5
事業内容 / 建設業
創業年 / 1998年
代表者 / 代表取締役社長 山本篤
従業員 / 48名
<https://yamasohome.co.jp>



会社ホームページ

就労支援とリサイクルをマッチング

社会福祉法人 福井県セルプ（福井市）

SDGsに貢献！

- ・障がい者の就労と生活を支援
- ・企業とタイアップし、廃棄予定の着物や生地をリサイクル



1.廃棄される布で、県公式SDGsロゴマーク（愛称：ジュナナ）のぬいぐるみを製作 2. 廃棄予定だった着物から作ったリメイク雑貨 3. リメイク商品を製作する様子

取り組みのきっかけ

「福井県セルプ」は、障がい者の就労と生活を支援する就労継続支援B型事業所「セルプうらら」、仕事のマッチングや販売会を行う「福井県セルプ振興センター」、就職から定着をサポートする「ふくい若者サポートステーション」を運営する社会福祉法人です。事業そのものがSDGsと直結しており、“共に安心できる生活を福井県全域に”“地域とのつながりを大切に”“健康と働きがいを目指して”をテーマに様々な取り組みを行っています。

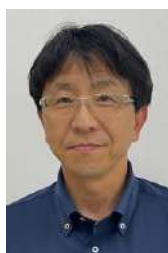
特に注力しているSDGsの取り組み

障がい者の就労支援に注力していますが、1人あたりの平均工賃は非常に低いのが現状です。福井県の平均工賃は、全国平均を大きく上回るものの、22,000円（令和3年度の就労継続支援B型事業所の平均工賃）となっています。この課題解決を目指して取り組んでいるのが、企業と福祉事業所をつなぐ「お仕事マッチング」です。一例として、アパレル企業とタイアップし、廃棄される古い着物や生地を、バック・ポーチなどの雑貨や、県公式SDGsロゴマーク「ジュナナ」のぬいぐるみに活用しています。

担当者の思い

柑本 浩さん

企業とのタイアップは、工賃のアップややりがいの向上など、障がい者の就労支援に大きく貢献しています。着物や生地をリサイクルした商品を販売会に出すことによって、障がい者がより社会とつながる場の創出にもつながりました。また、伝統文化を体現する貴重な資源である着物の廃棄を削減し、有効活用できたことをうれしく思います。



Company Information

社会福祉法人 福井県セルプ

住所 / 福井県福井市学園3-7-5
事業内容 / 福祉サービス
創業年 / 2017年
代表者 / 理事長 大館嘉昭
従業員 / 26名
<https://e-selp.or.jp>



会社ホームページ

アパレル業界の課題解決に向き合う

291PJT（福井市）

SDGsに貢献！

- ・県内で一貫したアパレル生産によって、運送で排出されるCO2削減を目指す
- ・次世代の繊維産業を担う学生を支援



1..291PJTが協力した東京文化服装学院ファッションショーの一場面 2..文化服装学院の学生を福井に招いて説明会を実施 3.説明会で積極的に質問する学生

取り組みのきっかけ

福井県は繊維産業で知られていますが、コロナ前までは、アパレルに関連する県内企業はほぼ連携していませんでした。しかし、コロナ禍の間、県内の企業同士が協力し、マスクやアパレル製品などを作る機会が増えたのをきっかけに、連携の機運が向上。県内でアパレル生産の完結を目指す団体「291PJT（福井プロジェクト）」を立ち上げました。県内で一貫したものづくりを行うことで、運送中のCO2削減につながるなど、環境への貢献ができると考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

地域経済の振興と共に若い才能を育て、持続可能な未来に貢献することを目指しています。2023年11月、東京文化服装学院の学校祭ファッションショーと初のコラボが実現しました。これは文化服装学院としても新たな取り組みで、県内企業にとっては次世代の繊維業界を担う学生支援に注力するきっかけとなりました。学生は県内企業の信頼性の高い資材を使用でき、工場見学などで福井を訪れることで関係人口の増加にもつながっています。

担当者の思い

代表 **山本 和紀**さん

291PJTという団体を通じ、県内企業が定期的集まってミーティングを行うことで、CO2削減に貢献したいという共通の想いが強くなりました。また、ファッションショー用の資材を提供した学生が福井にリサーチに来たり、卒業後に福井県内への就職を希望する声や、実際に就職したことを聞くと、とても嬉しく思います。



Company Information

291PJT

住所 / 福井県福井市清水杉谷町45-300
事業内容 / アパレル生産、学生研修の受け入れ、学生のもづくり支援
創業年 / 2023年
代表者 / 代表 山本和紀
メンバー / 7名
<https://instagram.com/291pjt/>



団体 ホームページ

古着を“一点物”にリメイク

T.K GARMENT SUPPLY株式会社（福井市）

SDGsに貢献！

- ・本来廃棄される古布を、バッグやジャケットなどの商品として再生
- ・ものづくりの事業を通して地域との連携を強化



1. フランス軍で使用されていたテントをリメイクしたバッグ 2. 古着のジーンズを豊富にストック 3. 古着をバッグなどの新たな商品に再生

取り組みのきっかけ

数十年前にアメリカの古着倉庫で買付事業をしていたとき、大量の衣類が回収・廃棄されているのを目の当たりにし、「もったいない」と感じたことがきっかけです。まだ、「リメイク」「リペア」という言葉が一般的でなかった頃、古着を活用して商品を製造し始めると、アメリカのファッション業界で注目され、認められたと感じました。それが、「T.K GARMENT SUPPLY」というブランド誕生につながり、一点物を作り続けています。

特に注力しているSDGsの取り組み

縫製工場から出る残反や、生地製造時に出るキズモノなど、廃棄するしかなかったものを価値ある商品に変え、いかに多くの人に使用してもらえるか。その実現を目指して、私たちのものづくりは古布の分解から始まります。「古布を端切れ一片たりとも無駄にしない」という想いからT.K GARMENT SUPPLY独自のパッチワーク技術が生まれました。高い技術を持つシニア層を中心とした職人たちの手仕事によって、新たな価値を創造しています。

担当者の思い

T.K GARMENT SUPPLYの事業を通して、衣料品や雑貨のプリント加工を行っている工場など様々な会社や行政とのつながりが広がりました。そうした方々と知恵を出し合い、古着を価値あるものに再生させるものづくりの喜びを共有することで、廃棄物の製品化への希望をより強く持てるようになりました。



Company Information

T.K GARMENT SUPPLY株式会社

住所 / 福井県福井市羽水1-108-2
事業内容 / 衣類製造卸業
創業年 / 2005年
代表者 / 代表取締役 竹内
従業員 / 3名
<https://tkgarmentsupply.com/>



会社ホームページ

クリエイティブで地域を活性化

株式会社 ハングオーバープレート (勝山市)

SDGsに貢献!

- ・地域や産業のブランド化・活性化をクリエイティブ思考で支援
- ・出前授業などを行い、次世代のものづくり人材を育成



1.地域と立ち上げた、ものづくりプラットフォーム「勝山工ふ房」 2.多田製紐の残糸をアップサイクルした「レインボー組紐」。勝山市パートナーシップ宣誓制度の記念品などに採用された 3.成器南小学校での出前授業。「雪室そば」パッケージを考案し「ESD大賞」の文部科学大臣賞に輝いた

取り組みのきっかけ

当社の創業メンバーは、広告代理店やメディア企業での経験を通じて、持続可能かつ魅力的なブランドづくりやクリエイティブ、情報発信にいち早く力を注ぎ、国際的なプロジェクトから地域密着型の取り組みまで、さまざまな実績を積んできました。SDGsは地域社会全体を豊かにするために欠かせない要素であるとの共通認識のもとで、創業当初から地域や地域企業への貢献を柱の一つとし、持続可能な未来をともに築くための活動をしています。

特に注力しているSDGsの取り組み

日本各地に“にぎわい”を作り出すことを目的に、クリエイティブ思考で地域や自治体、企業を支援しています。例えば、勝山市のものづくりに焦点を当てたブランド構築や音楽フェスの企画運営、廃棄される残反や残布、残糸を活用したライフスタイル商品の企画開発といった、地方創生の新しいモデルづくりに取り組んでいます。また、次世代の人材育成にも注力しており、ESD（持続可能な開発のための教育）支援などを行っています。

メディア掲載例

- ・成器南小がESD大賞で最高賞「雪室そば」パッケージ考案 <https://www.chunichi.co.jp/article/841840>
- ・町工場の古い機会を使用「レインボー組紐」が誕生するまで <https://o-temoto.com/akiko-kobayashi/tada-seichu/>

担当者の思い

代表取締役 山崎 瑠美さん

SDGs視点で物事を捉え直すと、これまで見逃していた新しい価値に出会えることが多々あります。勝山市の事業者と共同開発したアップサイクル商品がきっかけとなって自治体の新制度を支援する機会を得たり、出前授業をした小学校が「ESD大賞」で最高賞の文部科学大臣賞を受賞したりと、うれしい動きが広がっています。



Company Information

株式会社 ハングオーバープレート

住所 / 福井県勝山市郡町2-6-13 (福井オフィス)
事業内容 / ブランディング、マーケティング、クリエイティブ、PR、SDGs、地域活性
創業年 / 2021年
代表者 / 代表取締役 山崎瑠美
従業員 / 0名
<https://h-ope.work/>



会社ホームページ

“みんなのため”にできることをやり続ける

清川メッキ工業株式会社（福井市）

SDGsに貢献！

- ・省エネルギーや効率化を意識した製品開発
- ・独自技術を活かした野菜栽培で、安全安心な食を提供



1.無菌状態で栽培する野菜工場 2.目に見えないほどのナノサイズにめっきを行う技術 3.学生連を対象に、実演や体験を行う「めっき教室」

取り組みのきっかけ

SDGsに改めて特別に取り組むのではなく、これまで私たちが思い描いてきた正しい経営のためにやってきたことが、SDGsの全17項目に当てはまっていました。元々商売というのは“みんなのため”にすることなので、当社は「SDGsだからやろう」「SDGsだからしなくちゃいけない」という思いは特別持たなくても良いと考えています。「本来やるべきこと」「正しいこと」に対してこだわりを持ち、継続していくことが一番大切だと私たちは考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

ナノレベルのめっきを開発することで、地球環境にも寄与しています。製品が小さければ製造に必要なエネルギーや材料も少なく、廃棄する際の環境負荷も削減されます。また、敷地内にある野菜工場では、めっきの技術を活用して開発した栄養分の高い溶液を用いてハーブなどの野菜を栽培。高栄養かつ無菌状態での栽培により長くしおれずに使え、地産地消の推進や食の安心安全も提供しています。工場働く人材には、高齢者や障がい者を積極的に雇用。すべての人が平等に働ける環境も整備しています。

担当者の思い

総務部 清川 卓二さん

教育現場でSDGsに取り組まれている今、学校の課外学習や修学旅行で「SDGsに取り組む企業」として当社への訪問が増えています。めっきの様々な可能性や、面白さを感じてもらうための実演・体験を行う「めっき教室」を実施。めっきが付いた際の驚きの表情や、オリジナルのメダルが完成した時の子供たちの喜びようはとても印象的です。



Company Information

清川メッキ工業株式会社

住所 / 福井県福井市和田中1-414
事業内容 / めっき加工業
創業年 / 1963年
代表者 / 代表取締役社長 清川 肇
従業員 / 335名
<https://www.kiyokawa.co.jp>



会社ホームページ

廃棄物の活用に着目し、新しい和紙と商品の開発に挑戦

有限会社 笹尾印刷所（鯖江市）

SDGsに貢献！

- ・全国のさまざまな廃棄素材を活用した「ご当地SDGs和紙」を開発
- ・「ご当地SDGs和紙」を使ったアップサイクル製品の商品化を目指す



1. さまざまな「ご当地SDGs和紙」 2. スタジアムの芝を活用した紙グッズのイメージ 3. 廃棄素材を使用しながら印刷・加工適性も追求

取り組みのきっかけ

近年のペーパーレス化の流れの中で、私たち印刷業界の市場は毎年5～10%縮小しており、果たして業界自体が持続可能なのかという疑問を持っていました。そこで、「世の中に必要とされる紙製品は何か」を思案しながら、SDGsの視点で付加価値を持った紙が作れないかと考えました。そして、越前和紙を製造する小畑製紙所さんとともに、これまで生産過程で廃棄されていた素材を資源として活用した「SDGs和紙」の開発に取り組み始めました。

特に注力しているSDGsの取り組み

「蕎麦殻（福井）」「バガス（沖縄）」「貝（北海道）」「芝（各スタジアム）」「落花生の殻（千葉）」「竹（神戸）」「木くず（岐阜）」など、全国のさまざまな廃棄素材を活用した和紙を開発し、「ご当地SDGs和紙」として販売しています。開発に当たっては、印刷・加工がしやすいなど使用性も重視しました。また、さらなる展開として、「ご当地SDGs和紙」を用い、付加価値を高めたアップサイクル製品の開発と商品化を目指しています。

担当者の思い

笹尾 昌樹さん

ペーパーレス化が進み、既存の用紙の種類も非常に減少しています。そのような中で当社は、越前和紙という伝統産業を担う会社とともに「SDGs和紙」を開発・製造し、市場を広げています。この経験を通して「多様性」という重要なキーワードをはじめ、SDGsの考え方の中に新たなビジネスのヒントが潜んでいることを学びました。



Company Information

有限会社 笹尾印刷所

住所 / 福井県鯖江市丸山町4-2-31
事業内容 / 印刷業
創業年 / 1965年
代表者 / 代表取締役社長 笹尾昌敬
従業員 / 7名
<https://kankyoushi.sasao-print.jp>



会社ホームページ

社会問題や環境問題に対する社員の意識が向上！

セーレン株式会社（福井市）

SDGsに貢献！

- ・2050年、カーボンニュートラルを目指したCO2排出量削減の取り組み
- ・地球に優しいモノづくりを実現するため、環境負荷の少ない製品を開発・販売



1. 2024年3月に稼働開始した「二日市事業所バイオマスボイラー」
2. 世界初、パーソナルオーダーを実現したViscotecs make your brand福井店
3. 本革を超える新素材QUOLE®カーシート材

取り組みのきっかけ

世界を取り巻く社会問題や環境問題は複雑化の一途をたどる中、SDGsで掲げられた17の目標達成に向けて、企業の果たす役割は年々高まっています。当社グループも、国際社会の一員として、SDGsの重要性を認識。2023年5月、社長を委員長としたサステナビリティ委員会を発足し、各種課題の中からマテリアリティを特定して目標を設定し、活動を進めています。

特に注力しているSDGsの取り組み

2050年、カーボンニュートラルを目指し、ロスや無駄を可能な限り削減する地道な省エネ活動に加え、バイオマスボイラーや太陽光発電などの導入に積極的に取り組んでいます。

また、衣服の廃棄ロス削減がアパレル業界の重要課題となっている中で、IT技術を駆使し、短納期、在庫レスを実現する「Viscotex®（ビスコテックス）」や、本革との比較で約1/2の軽量、耐久性4倍以上、製造・使用段階での環境負荷低減を実現した本革を超える新素材「QUOLE®」を開発・販売しています。

担当者の思い

サステナビリティ推進部 城崎 敦志さん

SDGsの達成を目指したさまざまな取り組みを実施していくことで、社会問題や環境問題に対する社員の意識向上に繋がっています。また、この意識の向上が新たな環境対応製品の開発やカーボンニュートラルを目指した活動にも活かされています。



Company Information

セーレン株式会社

住所 / 福井県福井市毛矢1-10-1
事業内容 / 総合繊維業
創業年 / 1889年
代表者 / 代表取締役会長最高経営責任者
川田 達男
連結従業員 / 6718名（2024年3月末）
<https://www.seiren.com/>



会社ホームページ

自社ブランドを立ち上げ、障がい者のキャリア形成を支援

株式会社スタンドトゥギャザー（南越前町）

SDGsに貢献！

- ・障がい者雇用の促進
- ・他企業とも連携し、障がい者アーティストの活動を支援



1.「すたいるくま」の商品製作の様子 2.「すたいるくま」の商品ラインナップ 3.他企業とのコラボで商品化が実現したアートボード。

取り組みのきっかけ

障がい者福祉サービス事業所を運営している当社では、キャリア形成を目指す障がい者への就労支援を実施しています。より多くの地域企業とつながりを深め、障がい者就労について理解してもらうとともに、障がい者の活躍の場を広げていきたいと願っています。また、障がい者雇用は企業のSDGs推進につながるものであることから、私たちの事業を通して、地域企業のSDGs活動を後押しし、企業価値の向上に貢献できると信じて活動しています。

特に注力しているSDGsの取り組み

チャリティブランド「すたいるくま」を立ち上げ、障がい者アーティストの原画レンタルや販売を通して、収入の向上と仕事を得る機会の拡大に尽力しています。環境に配慮した商品開発を目指して他企業と連携し、2022年には障がい者の作品を、廃材を活用したアートボードにすることができました。また、障がい者アーティストを支援するクラウドファンディングを実施するなど、就労支援への理解を求めるコミュニケーション活動も活発に行なっています。

担当者の思い

職業指導員 **竹本 幸二**さん

障がい者アーティストを支援するチャリティブランドを立ち上げたことで、絵を描くことやデザインするのが好きな障がい者たちが、自信をもって自分をアピールできる環境になってきました。また、他企業と連携した取り組みによって、これまで以上に社会貢献への機会が増え、障がい者自身の成長にもつながっています。



Company Information

株式会社スタンドトゥギャザー

住所 / 福井県南条郡南越前町関ヶ鼻13-11-1
事業内容 / 障害福祉サービス事業所の運営
創業年 / 2015年
代表者 / 代表取締役 為國 正芳
従業員 / 37名
<https://standtogether-fukushi.com/>



会社ホームページ

資源、人、地域の力を活かしたハーブ栽培

セレクション（ホーリーバジル農園）（坂井市）

SDGsに貢献！

- ・ハーブの一種「ホーリーバジル」の育成に食品廃棄物や耕作放棄地を活用
- ・農福連携による障がい者の就業支援に加え、地域の高齢者の就業を支援



1.施設外就労として圃場で作業する障がい者の皆さん 2.事務所では葉や実を落とす作業などを実施 3.野菜くず等をまき終わった圃場

取り組みのきっかけ

8年前に病気で右手親指第一関節を失い、障がい者手帳の交付を受けたとき、知人を介して知ったのがハーブの一種であるホーリーバジルでした。ヒンディー語の“トゥルシー”（※）という別名を持つホーリーバジルはインドの伝統医学で用いられ、欧米でも健康効果が期待できるハーブとして利用されています。その魅力に惚れ込み、作るなら農福連携で障がい者の方と一緒に仕事をしたいと考え、今の事業をスタートしました。（※）「比類なきもの」の意。

特に注力しているSDGsの取り組み

ホーリーバジルの栽培には農薬や化学肥料、除草剤を用いず、防草・防虫効果があるコーヒークずや、肥料になる野菜くず等を使用します。カフェや障がい者施設で廃棄されていたこれらを活用し、循環型農業を実践。作業は、障がい者の他、地域の高齢者にもお手伝いいただき、幅広い年齢層の就業支援につなげています。持続可能な地域づくりの一助になればと、圃場は耕作放棄地を、事務所は空き家を活用。収穫したホーリーバジルはお茶やパスタ、無添加せっけんに加工して販売しています。

担当者の思い

代表 戸川 隆さん

農福連携を進めるに当たり、最初は、障がい者施設を探して当方からお願いしていましたが、近年は施設の方から就労希望のご連絡をいただくことが多くなりました。障がい者の方が喜んで働いてくださり、また、ホーリーバジルティーなどをご利用のお客様にもこの取り組みについてご理解いただき感謝しています。



Company Information

セレクション（ホーリーバジル農園）

住所 / 福井県坂井市春江町千歩寺33-1-17
 事業内容 / ハーブ栽培及び加工品の製造・販売
 創業年 / 2012年
 代表者 / 代表 戸川 隆
 従業員 / 2名
<https://selectionfukui.com/>



会社ホームページ

事業活動を通じて持続可能な暮らしの実現に貢献

株式会社日盛興産（高浜町）

SDGsに貢献！

- ・インフラ整備に必要不可欠な生コン・砕砂を徹底した品質管理の下で提供
- ・家庭用雨水タンクなど持続可能な暮らしにつながる商品を製造・販売



1.防災対応型雨水タンク 2.生コンの製造プラント 3.ネットショップ「TOKILABO」では天然木で作られた製品など長く使える商品を販売

取り組みのきっかけ

事業には、必ずソーシャルビジネスの側面があると思います。当社の本業は社会インフラや公共施設などの基盤材料となる生コンクリートや砕石砕砂の製造販売であり、持続可能かつ強靱な地域社会の構築に貢献しています。また、あわせて持続可能なライフスタイルを提案していきたいという思いから、2008年に雨水タンクや節水グッズの販売を開始。2020年には使い捨てにならない商品をセレクトして販売するネットショップ「TOKILABO」を開設しました。これらすべてがSDGsにつながるものと考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

日本は地震大国であり、震災時には水の確保が大変なことから、従来の雨水タンクを改良し、雨が降れば水が自動で入れ替わる「防災対応型雨水タンク」を開発しました。4人家族で3日分の水150ℓを溜めることができ、断水時はトイレの流し水などはもちろん、浄水ボトルを装着すれば飲用水としても利用可能です。また、平時は洗車や庭の水やりなどに利用できます。節水しながら災害時に備えることで、水資源の有効活用と安心安全で持続可能な暮らしにつながっています。

担当者の思い

代表取締役 日高 規晃さん

雨水タンクを購入されたお客様から、「設置後、子どもに『水を大切にするために雨を溜めて使うんだよ』と話したら、歯みがきのとき、水道の栓を閉めるようになりました」といった声が寄せられています。暮らしに安心安全をご提供すると同時に、資源を大切にするという環境教育にも役立っていることをうれしく思っています。



Company Information

株式会社 日盛興産

住所 / 福井県大飯郡高浜町青17-21-6
 事業内容 / 生コン・砕砂製造、家庭用雨水タンクの製造販売、サステナブル商品の通信販売等
 創業年 / 1956年
 代表者 / 代表取締役 日高 規晃
 従業員 / 37名
<http://wakasa.nissei-web.co.jp/>



会社ホームページ

生徒と地域が協働してまちの魅力を発信

福井市 越廼中学校（福井市）

SDGsに貢献！

- ・地域住民と協働し、越廼の豊かな自然や文化を広く発信
- ・地域の過疎化や人口減少を防ぐ



1.越前さかなまつりの様子 2.海岸清掃を行う生徒たち 3.生徒たちが作成した、越廼を持続可能な地域にするための目標「越DGs（こしでいじず）」

取り組みのきっかけ

近年、越廼では過疎化が進んでいます。これまで越廼中学校では、地域の良さを発信することで少しでも過疎化に歯止めをかけ、豊かな自然や文化を未来へと残していく「越廼PR」という活動に取り組んできました。そこで、生徒の活動目標にSDGsを取り入れ、自分たちが住む越廼を持続可能なまちにしようと、独自の目標「越DGs（こしでいじず）」を掲げました。この活動を通じて、課題に対し主体的に考え、協働して解決できる担い手を育てたいと考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

地域で行われる「越前さかなまつり」では特産品販売のお店を出店し、キャリア教育と同時に越廼の特産品の良さを広める活動を行いました。また、夏には越廼の豊かな海を守るため、保育園の園児や小学校の児童とともに海岸清掃を実施。さらに地域の方とともに福井駅前のハピテラスで越廼の水仙を無料配布し、美しい水仙の花を広める活動も行いました。どの活動も地域の方々と協働することで、生徒自身が「地域の一員である」と実感することにつながっています。

担当者の思い

橋爪 健吾さん

今、世界で広く行われているSDGsの取り組みが生徒にとって身近なものになり、SDGsに関連した新聞記事やニュースなどに興味を示すようになりました。生徒たち自身、何のために活動を行っているのが明確になり、以前よりも目的意識をもって活動に取り組めるようになりました。



Company Information

福井市 越廼中学校

住所 / 福井県福井市大味町29-83
事業内容 / 教育
創業年 / 1947年
代表者 / 校長 野坂 訓由
職員 / 12名
<https://www.fukui-city.ed.jp/koshino-j/>



学校ホームページ

地域の活性化や生ごみの堆肥化に取り組む

横町編集部 (大野市)

SDGsに貢献!

- ・空き家を活用した地域拠点「横町スタジオ」の運営
- ・地域と連携したソーシャルコンポストで生ごみを堆肥化



1.横町スタジオでの活動の様子 2.盆踊り祭りを企画・開催 3.ソーシャルコンポストでは、ミミズを活用して生ごみを堆肥化

取り組みのきっかけ

「横町編集部」は空き家を活用した地域拠点「横町スタジオ」を運営する大野市のまちづくり団体です。大学がない大野市では、若者の都市部への流出が続き、世代のバランスが崩れている現状があります。そこで、関西大学、大野市と協働し、都会の大学へ進学した学生が地方で活動できる環境整備を行なうことで地方への人的・質的な流れを作り、再分配を行なうことを目指しています。近年は学生、地域住民だけでなく、関西大学の卒業生も活動に関わるようになってきています。

特に注力しているSDGsの取り組み

特に注力しているのが「一家に一台から、一コミュニティに一台のコンポスト」を目指す「ソーシャルコンポスト」開発事業です。地域の自治会や学校などと協力して生ごみの堆肥化に取り組んでおり、今後も楽しくごみを減らせる方法について研究を進めつつ、事業として発展させ、循環型社会の実現につなげていきたいと考えています。また、横町スタジオを拠点に、横町通信出版、マルシェ開催、サークル立ち上げ支援、エリアマネジメント、空き家活用などの事業も行なっています。

担当者の思い

代表 三浦 紋人さん

「横町編集部」の活動はすべてSDGsにつながっていると認識しています。「横町スタジオ」を拠点にした数々の事業や、「ソーシャルコンポスト」開発事業を通して、他のさまざまな団体の取り組みを知ることができました。今後は、あらゆる主体者や地域と協働して課題解決につながるチャレンジをしたいと考えています。



Company Information

横町編集部

住所 / 福井県大野市日吉町1-7

事業内容 / まちづくり、研究

創業年 / 2019年

代表者 / 三浦 紋人

団体メンバー / 10名

<https://www.instagram.com/onoyokomachistudio/>



団体ホームページ

事業を通して持続可能なまちづくりに貢献

石森電通システム 株式会社（大野市）

SDGsに貢献！

- ・融雪設備事業で安心して暮らせる町に
- ・ドローンを農業に活用し、人手不足解消



1.ロードヒーティングによる駐車場融雪 2.テフロンヒーターによる屋根軒先融雪 3.ドローンを活用した農薬散布の様子

取り組みのきっかけ

屋根の雪下ろしという重労働で危険な作業から高齢者を守りたい。また、猛暑の中、重量物を背負って行う農薬散布作業から高齢者を解放したい。こうした思いが、SDGsに取り組む上でのベースです。当社は、電気通信工事業者として地域のインフラを支えてきました。また、ドローン事業や融雪設備事業も行っています。事業で培った技術や経験を生かし、過疎化や人手不足といった地域課題の解決の手助けをしたいと考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

屋根、駐車場などの電気式融雪工事を担う「雪国科学ふくい事業部」を立ち上げ、雪下ろしの危険を回避し、除雪の手間を軽減するための事業に取り組んでいます。融雪装置はできるだけ安価であること、メンテナンスが不要で誰にでも使いやすい装置であることを追及しています。また、ドローン事業では、農薬散布や肥料散布などスマート農業のお手伝いをしています。耕作地は小規模から大規模まで対応し、低価格で作業を請け負います。

担当者の思い

代表取締役 石森 満佳さん

融雪装置の施工や農薬散布のお手伝いを通じて、地域の高齢者から感謝されることが何よりも幸せです。地元の事業者として地元経済の発展、雇用の創出に努め、過疎化に少しでもブレーキをかけたいと思っています。また、雪国でも安心して暮らすことのできる地域社会の実現に向け、活動を続けていきたいと考えています。



Company Information

石森電通システム 株式会社

住所 / 福井県大野市中挾1-518

事業内容 / 電気通信工事業・融雪設備事業・ドローン事業

創業年 / 1985年

代表者 / 代表取締役 石森満佳

従業員 / 15名

<https://ids-fukui.jp/>



会社ホームページ

空き家の新たな活用と、次世代育成に取り組む

合同会社 木創 (若狭町)

SDGsに貢献!

- ・古民家をリノベーションし、空き家の持続可能な活用方法を提案
- ・地域の子どもたちが楽しみながら活躍できる場の提供



1. 「KAYABUKI BASE」の室内 2. オフィスを活用した「BRANCH BASE」 3. デジタルイラスト体験の様子 (BRANCH BASE)

取り組みのきっかけ

古民家改修工事を請け負う中で、家の作り手として古民家や空き家の新たな活用方法を探っていました。「長い時間が作り上げた古民家の趣をデザインとして生かし、新たな価値を加えたい」と考え、「KAYABUKI BASE」というプロジェクトを始めました。また、地元には子どもたちが活躍する場所がないことに気づき、子どもたち目線で楽しみながらクリエイティブ活動が行える「BRANCH BASE」を始めました。

特に注力しているSDGsの取り組み

「KAYABUKI BASE」は、「みんなでシェアするDIYスペース」として築100年を超える茅葺屋根の古民家を改修し、持続性のある活用をしています。また、年に数回、福井県産材の端材を活用した木工教室も開催し、木材の廃棄物削減に努めています。「BRANCH BASE」では、動画編集やイラスト作成、eスポーツの体験などができ、若い世代に、地元で居ながらPCを使って活躍できる可能性に気付いて欲しいと考えています。

担当者の思い

代表社員 辻一憲さん

「KAYABUKI BASE」や「BRANCH BASE」の活動を通して、男女問わず幅広い年齢層の方に当社のSDGsへの取り組みについて興味を持ってもらえています。また、学生と話す機会も増えました。若い世代に建築業界の魅力を伝え、人材不足など業界としての課題解決にも貢献できればと考えています。



Company Information

合同会社 木創

住所 / 福井県三方上中郡若狭町関58-14
事業内容 / 建設業
創業年 / 2020年
代表者 / 代表社員 辻一憲
従業員 / 2名
<https://mokusou-wakasa.com/>



会社ホームページ

高機能と省資源を両立させたニット素材の開発を推進

八田経編株式会社（鯖江市）

SDGsに貢献！

- ・原糸のロスやマイクロプラスチックの排出を抑える素材を開発
- ・持続可能な地域づくりを目指すイベントで繊維産業の魅力をPR



1. メイドイン北陸にこだわったSustenza® 2. 繊細な作業から生地が生まれる 3. ものづくり体験イベント「RENEW」で、繊維の構造などについて説明。

取り組みのきっかけ

近年、サステナブル素材がエンドユーザーやアパレル業界から注目されており、当社も生地メーカーとして身近なところからSDGsの目標達成に貢献できないかと考えるようになりました。ニット素材の経編生地は、機能性やデザイン性を高めるために複数の原糸を使って製造しますが、糸によって使用量が異なるため、単発生産の場合、余った糸を廃棄することも多かったのです。そこで、原糸のロスを最小化し、省資源化を図ることを検討し始めました。

特に注力しているSDGsの取り組み

「1種類の原糸で生地を編み、ロスを出さない」という考えに基づき、ストレッチ性、吸汗速乾性などに優れた高機能素材「Sustenza®」（サステンザ）を開発し、製造・販売しています。この名称は「Sustainable」と福井の方言「捨てんざ（捨てないよ）」の造語です。また、マイクロプラスチックの発生源となる合成繊維くずの脱落を抑制した生地「NukenNo®」（ヌケンノ）も開発。今後は製造だけでなく、回収と再利用も含めた製品開発を進めます。

担当者の思い

八田 嘉之さん

SDGsの取り組みを通じ、北陸の繊維産業の将来を考えるようになりました。さらに繊維業全体の価値向上に貢献しようと、丹南地域で開催されている持続可能な地域づくりを目指したものづくり体験イベント「RENEW」に継続出展し、繊維産業の魅力をPRしています。最近、製造工程で発生する「糸付き紙管」のアップサイクルを模索中です。



Company Information

八田経編株式会社

住所 / (本社) 福井県鯖江市中野町115-10
(あわら工場) 福井県あわら市東善寺5-10

事業内容 / 繊維製造業

創業年 / 1949年

代表者 / 代表取締役 八田嘉一郎

従業員 / 80名

<https://www.8ta.co.jp>



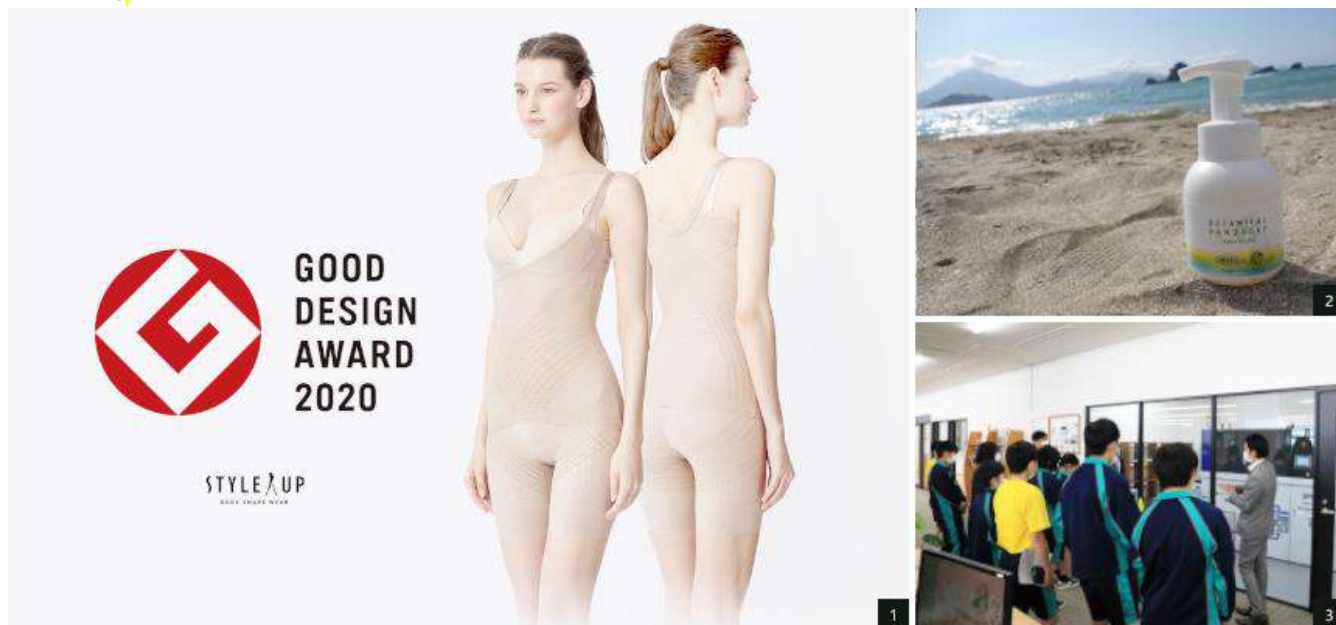
会社ホームページ

サステナブルかつデザイン性のある商品開発を

株式会社 エル・ローズ (福井市)

SDGsに貢献!

- ・企画設計で素材廃棄量を削減
- ・地元農産物廃棄予定品を活用した商品設計



1. 生地廃棄量を削減したインナーがGOOD DESIGN賞を受賞 2. 県内産オリーブ、レモンの残渣を用いたハンドソープ 3. 社会科見学を受け入れ

取り組みのきっかけ

当社は、ブランドメッセージとして「暮らしを変える、明日(あした)を変える」を掲げています。明日をより良いものへ変えていくという企業姿勢が、SDGsの目指す方向性と合致していると考え、取り組みを開始しました。SDGsを企業経営の拠り所にするために行なったのが、社長を長とした推進組織の立ち上げです。社内から目標を抽出して2030年のゴールを設定するなど、組織を中心に全社一丸となってSDGsに取り組んでいます。

特に注力しているSDGsの取り組み

「廃棄物を減らす」という、ものづくりをする者の責任を果たす取り組みに注力しています。たとえば、インナーの型紙を工夫し、機能はそのままに、生地の廃棄量の「削減」を実現しました。一方で、廃棄物の「利用」という観点から、地元農作物の残渣(規格外品や切れ端、搾油時の絞りかすなど)を用いたハンドソープなどの開発に取り組んでいます。また、パッケージにはFSC認証紙や米ぬかを積極活用するなど、包装にもこだわって、SDGsを起点としたものづくりを行っています。

担当者の思い

未来戦略室 笈田 彩代さん

SDGsの目標は誰にとっても理解しやすいため、社歴の浅い若手社員にとって、会社の方針や経営の目標を理解するための1つの指針になっていると感じています。それにより、社員全員が一丸となって、社会の課題解決を目指しながら経営目標を達成しようという良い空気生まれていると思います。



Company Information

株式会社 エル・ローズ

住所 / 福井県福井市三郎丸4-200

事業内容 / 衣料品(インナーウェア等)、健康食品、美容品等の企画・製造・販売

創業年 / 1979年

代表者 / 代表取締役社長 福田 忠義

従業員 / 102名

<https://www.elle-rose.co.jp/>



会社ホームページ

地域で衣服の循環を～あなたの服が誰かのために～

株式会社 上中クリーニング (若狭町)

SDGsに貢献!

- ・衣服の無料交換「服福サタデー」を実施
- ・おまとめ包装やハンガーの回収&リユースでゴミを削減し、資源を節約



1.「服福サタデー」の様子 2.店頭にはハンガー回収や資材削減の協力を伝えるクリーン宣言を掲示 3.リフォームに使用するミシンと糸

取り組みのきっかけ

数年前から衣服の修理やサイズ直しなどのリフォームを行う「簡単お直し」のサービスを始めたことをきっかけに、服を大切にしている人が多いことに改めて気づきました。一方で、サイズや好みの変化などによって着なくなった服をタンスに眠らせている人もたくさんいます。そうした衣服を一年でも長く着て欲しい（衣類の寿命を伸ばす）＝廃棄量削減で、必要とする人に届くように橋渡しをしたいと思うようになりました。

特に注力しているSDGsの取り組み

衣服の循環の場として、第1・3土曜日に「服福サタデー」を開催。「誰かに着て頂ければ」と提供いただいた服を無料でお持ち帰りいただいています。また、ゴミの削減・資源の節約の観点から、ビニール包装は単品包装から「スーツ上下セット包装」や、可能な範囲で2・3点を一緒にする「おまとめ包装」に変え、ハンガーは回収し再利用しています。

担当者の思い

代表取締役 **河原 宏美さん**

傷んでいたお気に入りの服を再び着られるようにお直しすると、非常に喜んでいただけます。「服福サタデー」は、捨てるのは忍びないと思っていた提供者の方と、入手された方の双方に喜ばれ、衣類循環のお手伝いができることをうれしく思っています。毎回楽しみにしてくださる方もおられ、情報交換や交流の場にもなっています。



Company Information

株式会社 上中クリーニング

住所 / 福井県三方上中郡若狭町天徳寺 24-9-6

事業内容 / クリーニング全般、衣類のリフォーム・メンテナンス

創業年 / 1961年

代表者 / 代表取締役 河原 宏美

従業員 / 15名

<https://r.goope.jp/rascal>



会社ホームページ

エコバッグなど包装資材を通してSDGsを推進

株式会社 パッケイ (福井市)

SDGsに貢献!

- ・店のブランド力向上につながる、環境にやさしい包装資材を提案
- ・SDGsパートナーが共同で、端材を使ったエコバッグと手提げ袋を製品化



1.ふくいSDGsエコランチバッグ 2.越前和紙の端材を使用した手提げ袋 3.社内全体で環境保全につながるパッケージを開発

取り組みのきっかけ

2020年から2年間、福井大学大学院国際地域マネジメント研究科の社会人学生として社員を派遣しました。授業の中で「ふくいSDGsパートナー」や、SDGsの17の目標と169のターゲットについて知り、SDGs達成のための取り組みは、どのような企業でも簡単に始められることだと思いました。そして、創業以来40年にわたり福井の地で包装資材を提供させていただいている当社ができることを考え、ふくいSDGsパートナーに登録しました。

特に注力しているSDGsの取り組み

お客様である小売店様に環境にやさしい包装資材をご紹介します、エコな包装がお店のブランド力向上に繋がることをご説明しています。また、他のSDGsパートナーとの連携により、コロナ禍で余ってしまったアウトドア用品の生地を活用したエコバックや、越前和紙の端材をアップサイクルした手提げ袋などを製品化しました。袋の魅力はもちろん、端材を障がい者福祉事業所で加工しているなどのストーリー性に共感された方にご購入いただいています。

担当者の思い

黒川 武志さん

SDGsの取り組みにより、福井でバッグを作っている当社を地域の方に知っていただくことができました。SDGsパートナーが共同でものづくりをする中で他社の課題を知り、その解決につながる製品を作ることで、自社の存在意識を確認することができました。パートナーの力は大きく、福井全体でSDGsに取り組んでいる安心感を与えてくれます。



Company Information

株式会社 パッケイ

住所 / 福井県福井市運動公園1-2103
事業内容 / ショッピングバッグ等包装資材の製造・販売
創業年 / 1983年
代表者 / 代表取締役 黒川 佳彦
従業員 / 7名
<https://www.pac-k.com/>



会社ホームページ

資源の再利用と、箸を活かしたプロジェクトを推進

株式会社 兵左衛門 (小浜市)

SDGsに貢献!

- ・箸の使い方を学ぶ出前授業や、箸を贈るプロジェクトなど社会貢献事業を実施
- ・折損バットやバットの端材、間伐材などを再利用する取り組みを展開



1.回収されたバット材の加工風景 2.バットから製造した商品 3.北海道で、地域の子どもたちと一緒にいったアオダモ植林活動の様子

取り組みのきっかけ

当社はSDGsが浸透し始める前から、お箸を通して食文化やマナーを見つめ直してもらうための「お箸知育教室」や折損バットなどを再利用する「かっとなび!!プロジェクト」、児童養護施設の子どもたちに新しいお箸をプレゼントする「はしながおじさんプロジェクト」といった社会貢献事業を行っています。これらをSDGsの行動指針に当てはめることで各事業の目的が明確になり、また、お客様に認知いただきやすい共通アイコンができ、さらなる事業活動の発展につなげることができたと考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

良質なバット材として有名なアオダモは、材料になる大きさに育つまで70~80年かかるため、保護育成が大きな課題となっています。そこで、当社では2002年から野球界とも連携し、折損バットや、バットを作る際に発生する端材を再利用し、お箸、カトラリー、ボールペンなどの文房具を製造販売しています。売り上げの一部は、「NPO法人アオダモ資源育成の会」を通じてバット材のアオダモの植樹・育成活動に活用されています。

担当者の思い

企画部 西村 あゆみさん

以前から実施していたプロジェクトをSDGsに紐付けることで、各事業を多角的に捉えることができるようになりました。また、プロジェクトが認知されやすくなったことにより、大学などの研究林の間伐材を再利用する取り組みなど、今までにない新しいプロジェクトに発展するきっかけになったと思います。



Company Information

株式会社 兵左衛門

住所 / 福井県小浜市甲ヶ崎31

事業内容 / 漆箸および漆工芸品等の製造販売

創業年 / 1921年

代表者 / 代表取締役 浦谷 剛人

従業員 / 70名

<https://www.hyozaemon.co.jp>



会社ホームページ

減プラスチックに貢献する新商品を開発

株式会社 福井クラフト（鯖江市）

SDGsに貢献！

- ・卵の殻とパルプが主成分の半分以上を占めるバイオマス食器を開発
- ・職場で働くみんなが、その能力を十分に発揮できる環境づくり



1. 展示商談会での「シェルミン」の展示風景や料理への使用イメージなど 2. 食器を長く使うための塗り直しサービス 3. 社員で協力して荷受けをする様子

取り組みのきっかけ

SDGsとは「2030年までに、もっと良い世界になるように、世界中の人たちみんな協力して叶える17個の目標」であると理解しています。当社もその「みんな」の一員であり、世界から見れば小さなことでも何かできないかと考えました。当社の社員やその家族、まわりの人たちが楽しく暮らす未来のために、まず全ての社員にSDGsを周知して企業理念に立ち返り、みんなで出来ることを考えて行動しようと思ったのがきっかけです。

特に注力しているSDGsの取り組み

業務用食器卸会社として、減プラスチックの「未来を考える食器」に注力しています。卵の殻とパルプが主成分の57%~61%を占めるバイオマス食器「シェルミン」や、生分解性の素材である酢酸セルロースが主成分の箸を開発しました。以前から行っている食器の塗り直しも続けています。その他、「能力を十分に発揮出来る職場」を目指し、オンラインも活用した社内の情報共有の円滑化や、各部署の女性の意見をまとめて女性が輝ける環境づくりに取り組んでいます。

担当者の思い

専務 上田 秀実さん

3年をかけて開発し、2021年10月ようやく販売にこぎつけた「シェルミン」は、地元の新聞やラジオ番組のSDGsをテーマにしたコーナーなどメディアに取り上げられ、2022年度のグッドデザイン賞も受賞しました。こうした成果は初めてのことで、弊社のSDGsへの取り組みについて自信を持ってお客様にお伝えできるようになりました。



Company Information

株式会社 福井クラフト

住所 / 福井県鯖江市戸口町24-23
事業内容 / 業務用漆器、食器卸
創業年 / 1981年
代表者 / 代表取締役社長 高野浩
従業員 / 70名
<http://www.fukuicraft.co.jp/>



会社ホームページ

県民の幸せと地域のための“お役立ち”を

福井県民生活協同組合（福井市）

SDGsに貢献！

- ・プラスチック容器包装の削減やエシカルな商品の展開に取り組む
- ・地域社会とのつながりを重視した活動を



1. 地域や環境、人々などに配慮してモノやサービスを買う「エシカル消費」を推進 2. 食品トレーを使わずに包装しているお肉の商品 3. 地域の団体や学校を対象にした環境学習会等を実施

取り組みのきっかけ

“食の安全とくらしの安心で県民へのお役立ち”を使命に掲げ、SDGsが推奨される前から、ゴミを減らす3Rの推進などを通して、地球温暖化などの社会問題に対応してきました。SDGsの理念と生協の理念は重なりあうことから、地域と連携した取り組みを展開し、地域のために“お役立ち”を図っていくことが、県民の幸せと地域社会のためにつながっていくと考えており、SDGsへ積極的に関与しています。

特に注力しているSDGsの取り組み

県内で最初にレジ袋の有料化に取り組み、買い物袋持参率は9割以上を達成。収益金は地域の環境保全団体へ寄付しています。また脱プラスチックの取り組みとして、ストローやスプーン、フォークの全員への配布中止とバイオマスプラスチック素材への変更、お肉のノントレー包装、ペットボトルから紙パックへの包材変更、ラベルレス飲料のほか再生プラスチックや植物由来プラスチックを使用した商品の発売など、幅広く展開しています。

担当者の思い

渉外広報部 高井 健史さん

SDGsに取り組むことで自治体や団体、学校など、さまざまな地域の方とのつながりが増え、連携やパートナーシップが生まれるようになりました。海洋プラスチックの問題においては、地域のNPOと連携して海岸清掃を行ったほか、ゴミ問題を知る企画にも取り組み、現状と課題について理解を深めました。



Company Information

福井県民生活協同組合

住所 / 福井県福井市開発5-1603

事業内容 / 食料品小売販売、介護福祉、子育て支援、共済、生活支援等

創業年 / 1978年

代表者 / 理事長 松宮 幹雄

従業員 / 1620名（2021年度末）

<https://www.fukui.coop>



会社ホームページ

省資源と環境に配慮した、土に還る和紙カーテンを開発

株式会社カズマ（福井市）

SDGsに貢献！

- ・カーテン生地¹の廃棄をゼロにする新しいデザインや素材を考案
- ・生地から土、土から染料の生産へとつながる資源循環を目指す



1.和紙を活用したカーテン「kami」 2.アロニア・コーヒーとその残りかすで染めた生地 3.「kami」が生分解している様子

取り組みのきっかけ

カーテンの製造過程でやむを得ず廃棄する生地は年間3.4万tともいわれています。そこで、廃棄生地を削減するために自然素材を使用し、プラスチックフックの代わりに生地に穴をあけ布紐を通して掛ける「KURASIKU」を開発。ヒダやタッセルがないデザインを考案したことで廃棄ゼロが可能になりました。しかし、掛け替え後の古いカーテンは従来通り廃棄せざるを得なかったことから、さらなる対策として、土に還る素材の開発に取り組みました。

特に注力しているSDGsの取り組み

土に還るカーテン素材を探す中で福井にもゆかりがある『和紙』に出合い、消臭、調湿、抗菌、UVカットなどポリエステルに劣らない機能性に着目しました。天然染めにもチャレンジし、染料は食品廃棄物の活用にご協力アロニア・コーヒーの残りかすを使用。試行錯誤の結果、和紙カーテン「kami」を開発し製品化にこぎ着けました。さらに、使用後の生地を土に敷いたり鋤き込んだりして微生物を増やし、有機の土壌に還す循環ステージに向かって注力しています。

担当者の思い

代表取締役社長 数馬 亜季子さん

以前は一方通行的に販売するだけでしたが、今は、使用した生地を土に鋤き込み、天然染めの材料になる植物を育てるなどの循環ステージが目標であると伝えることで、お客様の共感が得られていると実感しています。社内においても、この取り組みによって社員一人ひとりの意識が変化し、新たなSDGsの動きにつながっていると感じています。



Company Information

株式会社カズマ

住所 / 福井県福井市八重巻町105

事業内容 / カーテンを中心としたホームファッション商品の企画・製造・販売

創業年 / 1964年

代表者 / 代表取締役社長 数馬亜季子

従業員 / 262名

<https://e-kazuma.jp>



会社ホームページ

捨てられていた食材や命をおいしい食べ物に生まれ変わらせる

株式会社 Fumidasu (福井市)

SDGsに貢献!

- ・「へしこ」製造に使用した糠を「食べるへしこオイル」に再加工
- ・害獣として捕獲された動物の肉を加工・販売し、命を無駄にしない



1. 鯖を漬け込んだ糠を再加工した「食べるへしこオイル」 2. 害獣の肉がおいしいジビエに 3. 熟成したジビエは自社の居酒屋でも使用

取り組みのきっかけ

「Fumidasu」は食 (Food) を生み出す (umidasu) 会社です。私たちは、日々食と向き合いながら、世の中にはまだ知られていないおいしい物がたくさんあると感じています。そして、それらの中には、扱いにくい、認知度が低い、あるいはイメージの問題があるといった理由で捨てられている物が少なくありません。このような食材を生まれ変わらせ (umidasu)、広めることに挑戦したいと考え、調味料への再加工やジビエの販売をスタートしました。

特に注力しているSDGsの取り組み

鯖の糠漬け「へしこ」は、古くから保存食としてつくられてきた福井の郷土料理です。この製造過程で生まれる糠には1年間の熟成と発酵を経た旨味が詰まっていますが、これまでは捨てられていました。そこで、この糠にニンニクなどを加えオイルに漬け込んだ「食べるへしこオイル」を開発しました。また、害獣として捕獲、処分されていた動物の肉を熟成・加工して販売し、ジビエのおいしさを広め、無駄になる命を減らす取り組みを進めています。

担当者の思い

代表取締役 宮守雄也さん

さまざまな理由で捨てられている食材を、気軽においしく食べられる物に生まれ変わらせたい。また、害獣対策で捕獲された動物の命を無駄にしたい。そんな気持ちで活動を続けています。特段PRはしていませんが、興味を持った方が購入してくださったり、他の方の活動を教えていただいたりしながらSDGsの輪が広がっています。



Company Information

株式会社 Fumidasu

住所 / 福井県福井市宝永1-3-15
事業内容 / 飲食店、食品加工・販売
創業年 / 2022年
代表者 / 代表取締役 宮守雄也
従業員 / 15名

SDGsに貢献する事業を展開

株式会社ネクアス（坂井市）

SDGsに貢献！

- ・環境に優しい素材を製造販売
- ・環境への関心を高める学びの場を、次世代に提供



1.三国花火大会翌日、ボランティア活動として海岸を清掃 2.製品について学んだ高志高校の生徒さんたち 3.環境に優しいプランター「tamakara」

取り組みのきっかけ

当社はグループ会社である「三和商会」の事業が前身です。2020年に環境への負担を限りなくゼロにする、生分解性に優れた酢酸セルロースをベースにしたバイオマス資材「NEQAS OCEAN」を開発。翌年にネクアスを設立しました。事業そのものが環境に配慮した素材の製造販売であり、SDGsの目標に向けて取り組んでいます。設立して間もないですが、将来的に県内外で業務を拡大し情報発信していくことが、結果的にSDGsへの貢献につながると考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

2021年の三国花火大会では、使ったレジャーシートと併せて飲食のごみなども一緒に持って帰ってもらえるよう、当社のレジャーシート兼ゴミ袋が導入され、現場のゴミの量を格段に削減することができました。また、次世代へのアプローチとして、若狭高校とのWeb授業や、高志高校の生徒さんを招待した工場見学を実施し、SDGsの取り組みについて議論を重ねました。今後は、地元小学校で出前授業やWeb授業を行い、卵殻を51%配合したフィルムプランター「tamakara」を通じてSDGs教育の実践を図ることを計画しています。

担当者の思い

岩村 正司さん

SDGsをテーマにした授業などを通して、次世代からの素直な疑問に真正面から応えていくことが大事だと気付かされました。また、県内外の企業におけるSDGsへの関心や具体的な取り組みは1年前よりは格段に高まっており、さらなるスピードアップや数値化が望まれていると感じます。そこに当社が貢献できるよう日々努めております。



Company Information

株式会社ネクアス

住所 / 福井県坂井市三国町南本町1-2-51
事業内容 / 生分解性及びバイオマスプラスチックの製造販売
創業年 / 2021年
代表者 / 代表取締役社長 船谷和宏
従業員 / 13名
<https://neqas.co.jp>



会社ホームページ

企業と生徒が協力してリサイクルに取り組む

有限会社木村商店（大野市）

SDGsに貢献！

- ・リサイクルのプロとして住みやすい環境づくり
- ・学校に資源回収ボックスを設置し、リサイクルを身近なものに



1. 阪谷小学校での資源回収の様子 2. 尚徳中学校に設置している資源回収ボックス 3. 回収したアルミ缶はプレス加工し再資源化

取り組みのきっかけ

鉄・非鉄金属の処分が可能な大野市唯一の事業者として、廃棄になった鉄くず等の再資源化を行っています。その仕事そのものがSDGsであることを再認識し、さらに地域に貢献したいという思いから大野市内の学校との連携を始めました。また、廃棄物を収集・運搬する際にはエコドライブを心がけ、地域の清掃活動に協力しています。リサイクルのプロとして、住みやすいキレイな環境づくり、持続可能な社会に貢献し続けたいと考えております。

特に注力しているSDGsの取り組み

学生が「資源」を身近に考える機会を提供したいと考え、大野市内の小中学校と連携してリサイクル活動をスタートしました。尚徳中学校、開成中学校などにアルミ缶の回収ボックスを設置し、家庭から出るアルミ缶の資源回収を実施。生徒たちは回収量をグラフにして見える化するなど、自分たちで工夫しながら積極的に取り組んでいます。アルミ缶は定期的に重量に応じて買い取り、当社で再度アルミ缶や窓枠に加工し、再資源化を行っています。

担当者の思い

代表取締役 **木村 政嗣**さん

学校と連携したリサイクル活動は大きな意義がありました。家庭から出るアルミ缶の回収を通して、SDGsを身近なものと感じてもらえたのではないかと感じています。SDGsという特別なことと思いがちですが、できる取り組みは身近にあふれていて、すでに取り組んでいるSDGsもあるということに気付いてもらえてよかったです。



Company Information

有限会社木村商店

住所 / 福井県大野市春日3-2-19
事業内容 / 産業廃棄物収集運搬処分業
創業年 / 1948年
代表者 / 代表取締役 木村政嗣
従業員 / 13名
<https://www.kimurasyouten.co.jp>



会社ホームページ

環境にやさしい繊維素材を世界へ

明林繊維株式会社（福井市）

SDGsに貢献！

- ・老舗繊維メーカーとして今できることをカタチに
- ・再生セルロース繊維に特化したものづくり



1. 日本の職人が丁寧に製造する様子 2. 再生セルロース繊維には、廃棄される天然由来原料を使用 3. 再生セルロース繊維を使ったナイトウェアも販売

取り組みのきっかけ

「人と地球と産業を結んで持続可能をカタチにしたい！」「環境にも人にもやさしい繊維のチカラで役に立ちたい！」という2つの想いが、SDGsに取り組むきっかけになりました。特に「つくる責任つかう責任」「海の豊かさを守ろう」、「陸の豊かさも守ろう」というSDGsゴールは、当社の最重要課題と認識しています。伝統と革新を融合させたものづくりで発展してきた老舗繊維メーカーとして、今できることの本気をカタチにしたいと考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

当社は、北陸産地を軸に再生セルロース繊維を中心とした繊維素材メーカーとして事業を展開してきました。天然原料の再生セルロース繊維を使用することで、土に還り、植物が育ち、そこからまた繊維素材ができるという循環型で環境にやさしい素材を世界中に広げていくことに注力しています。生地の場合には撚糸・織り・染め、製品の場合は縫製までのすべての生産工程を国内で完結させることで、輸送によってかかる環境負荷も軽減しています。

担当者の思い

新田 泉さん

再生セルロース繊維に特化したものづくりが差別化につながり、世界中のブランドから注目されるようになってきました。世界がサステナブルを当たり前として意識するようになり、日本も少しずつその意識が芽生えてきたように感じています。今後さらに意識が高まり、地球にやさしい世界になればみんなが幸せになると信じています。



Company Information

明林繊維株式会社

住所 / 福井県福井市乾徳3-11-30
事業内容 / 繊維素材の卸売、繊維製品の小売
創業年 / 1968年
代表者 / 代表取締役社長 村上貴宣
従業員 / 16名
<https://meirin-seni.co.jp/>



会社ホームページ

環境にやさしい製品を提供し、持続可能な社会づくりに貢献

株式会社 タナックス (福井市)

SDGsに貢献!

- ・世の中の製品の多くが、紙製品で代替できることを発信
- ・顧客のニーズに合わせ、自然素材やプラスチック代替素材の商品を提案



1.刈り取りから製品完成まで、麦ストロー「麦愁」の製造工程 2.エリプラペーパーで作ったフォーク 3.WASARAにアイス盛った様子

取り組みのきっかけ

当社は常に「一歩先んじて考える企業」「人を大切に 地域社会に貢献する」を目指して事業を展開しています。この考えがSDGsの方向性と同じだと気づき、企業としてできることを見つけ行動しようと思ったのがきっかけです。脱プラスチック、環境問題が社会課題といわれる中で、紙を取り扱っている強みを生かし、持続可能なライフスタイルの実現に向けて提案できる素材や商品を選択・販売することがSDGsに貢献すると考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

接客業や小売店の事業者様を中心に、環境に優しい商品、プラスチックに替わる商品をご提案しています。例えば、福井県産の六条大麦の茎を使ったストロー「麦愁」や高密度な硬い紙で、プラスチックの代替となる素材「エリプラペーパー」、植物繊維から作られた紙の器「WASARA」を事業内容等に合わせご提案し、さらに、これら以外にも環境に配慮した商品を取り揃えています。お客様のニーズに応えるとともに、SDGsにつながる商品をこれからも開拓・販売していきます。

担当者の思い

斉藤 芳子さん

SDGsに取り組むことで、社員や私自身の環境・人への考え方が変わり、商品そのものについてはもちろん、使い方、使った後のことなどを今まで以上に考えるようになりました。適切に管理された木材や原材料を使用していることを示すFSC認証を取得している当社ならではの環境配慮商品の提案に、今後も注力したいと思っています。



Company Information

株式会社 タナックス

住所 / 福井県福井市今市町62-11
事業内容 / 洋紙・板紙・産業資材・家庭紙・化成品等の販売
創業年 / 1903年
代表者 / 代表取締役 茂原昌来
従業員 / 39名
<https://www.e-tanax.com>



会社ホームページ

地球環境保全の啓発活動と脱プラスチック製品の普及を推進

若越印刷株式会社（敦賀市）

SDGsに貢献！

- ・地域の小学生を会社に招き、地球環境保全について学ぶ勉強会を開催
- ・「紙製クリアファイル」や「バナナペーパー」の普及活動を展開



1. 「紙製クリアファイル」を使った塗り絵のワークショップ 2. 東京ビッグサイトへ出展 3. 地域の小学生が工場見学と地球環境保全の勉強会に参加

取り組みのきっかけ

当社のような中小規模の印刷会社においても、年間600tの紙を使用しており、これは森林面積に直すと実にサッカー場9面分にもなります。森の恩恵を受けることによって成り立っている印刷会社にとって地球環境保全は使命であると考え、まずは健全な森林管理や適正な流通・加工に取り組んでいることを示す森林認証（FSC認証）を取得し、印刷に使用する紙をFSC森林認証紙に替えることで、森に対する負荷の軽減に努めることにしました。

特に注力しているSDGsの取り組み

小学生の工場見学を受け入れて地球環境保全について一緒に勉強したり、地元のイベントで、脱プラスチック製品の「紙製クリアファイル」を使った塗り絵などのワークショップを開催したりしています。また、東京の展示会ではバナナの茎の繊維を使用した「バナナペーパー」の普及活動も実施。「ちょっと不便でも、多少高くても、SDGsの達成につながるならこの製品を使おう」と考える世代が社会の中心となることを願い、活動を続けています。

担当者の思い

専務取締役 **楠 和浩**さん

「紙製クリアファイル」や「バナナペーパー」の普及活動をしている中で、以前より環境保全を牽引されている「日本野鳥の会」様や「モーリシャス国際協力基金」様などにも採用いただきました。より当社の活動にご賛同頂く企業様や団体が増えたと実感しています。



Company Information

若越印刷株式会社

住所 / 福井県敦賀市衣掛町413
事業内容 / 印刷業
創業年 / 1947年
代表者 / 代表取締役 藤田靖
従業員 / 50名
<https://www.jakuetsu-print.com>



会社ホームページ

紙のリサイクルを通して循環型社会の実現に貢献

株式会社 増田喜 (福井市)

SDGsに貢献!

- ・子どもたちが古紙リサイクルについて楽しく学ぶ「エコ教室」を開催
- ・焼却されていた古紙を製紙原料として再利用し、資源の有効活用を促進



1 保育園で開いた「エコ教室」で古紙分別クイズを実施 2 「エコ紙マン」と一緒に工場見学 3. 紙すき体験でメッセージカードを作成

取り組みのきっかけ

現在、地球は温暖化、オゾン層の破壊など多くの問題を抱えています。また、ペーパーレス化が進んでいるといわれながらも、未だに多くの紙資源が焼却されているのが現状です。未来の子どもたちに美しい地球を残すため、そして、焼却処理に費やされている税金を、少しでも有益な施策に活用してもらうために、燃やされている古紙をできるだけ多く製紙原料としてリサイクルし、循環型社会の実現に貢献することが私たちの使命だと考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

子どもの頃からリサイクルの知識を習得し、必要性を理解してもらうために、小学校や児童館、公民館などで「エコ教室」を開催しています。本教室では、増田喜のマスコットキャラクター「エコ紙マン」と一緒に行う古紙分別クイズや、再生紙を使った紙すき体験などを、リサイクルを楽しく身近に感じてもらう工夫をしています。子どもたちが家に帰り、学んだことを家族に話してもらうことでリサイクルの輪を広げ、紙ごみゼロの福井を目指していきます。

担当者の思い

総務部 木村 琴音さん

以前に比べ分別クイズの正答数が増えていることや、「エコ教室」後に子どもたちから「おうちで分別やってるよ!」「お父さんがやってたよ!」などの声を聞くことで、家族でリサイクルを実践いただいていることを実感します。SDGsが広く知られること、リサイクルの必要性が理解されることで、地球の未来を守っていけると信じています。



Company Information

株式会社 増田喜

住所 / 福井県福井市乾徳2-6-6
事業内容 / 古紙リサイクル、オフィス専用リサイクルサービス、機密文書処理サービス
創業年 / 1949年
代表者 / 代表取締役 増田喜一郎
従業員 / 54名
<https://www.masudaki.co.jp>



会社ホームページ

アップサイクル技術でプラスチックの環境問題を解決

株式会社 八木熊 (坂井市)

SDGsに貢献!

- ・建設現場で不要となった三角コーンの再資源化に関する実証試験の実施
- ・サーキュラエコノミー実現のための動静脈連携「iCEP」

大成建設株式会社提供
回収した三角コーン

粉砕

100%再生ベレット

再生三角コーンの作成

製品供給
-ブランドオーナー

使用・廃棄
-排出事業者
-消費者

株式会社 八木熊
-ベレット製造
-最終製品製造

原料化 / 形成加工

UNIKDEX
YAGIKUMA
プラットフォーム提供 (協業)

iCEP
SALES

大栄環境グループ
-後プラ収集・仕分け
-一次加工・保管

廃棄物集荷

iCEP
PLASTICS
リサイクル・リトルコーディネーター

2

当社初
バイオマスプラスチック配合の最新型車道バリケード
KYプラガードBP

バイオマスプラスチック配合の最新型車道バリケード
バイオマスプラスチック配合の最新型車道バリケードは、従来のプラスチック製バリケードと異なり、バイオマス由来の原料を使用しています。バイオマス由来の原料を使用することで、CO2削減に貢献しています。

この製品は、車道用製品に植物由来の原料を使用しています。

3

4

1. 建設現場で廃棄されている三角コーンを利用して再び三角コーンを製造
2. 動静脈連携、アライアンス構築でサーキュラエコノミーを実現
3. 100%リサイクル素材で作られたオリジナルガラス強化MB
4. バイオマスプラスチックが配合されたバリケード

取り組みのきっかけ

SDGs、カーボンニュートラル、脱炭素等の「環境配慮」の取組は日本だけでなく、世界的に加速しています。特にプラスチックを製造している八木熊でも今後リサイクルを始めとした環境配慮の取組は必要不可欠だと考えました。リサイクルの取組を推進する為には①カスケードリサイクルからの脱却、②産業廃棄物として処理されている廃プラスチックの有効活用の2点であると考えました。この①②の課題を解決する為にプラスチックの性能を向上させるアップサイクル技術の開発を始めました。

特に注力しているSDGsの取り組み

当社はプラスチックの循環モデル実現に向けた様々な活動を行っております。大成建設株式会社様と連携して行った、建設現場で廃棄されている三角コーンを回収し再び三角コーンに戻す活動もその一つです。適切に回収することにより、今まで産業廃棄物として処理されていた三角コーンを資源として有効活用することができます。これにより、廃棄物の処理量を減らすとともに、二酸化炭素の排出量削減にも貢献することができます。

担当者の思い

西川 将司さん

現在プラスチックの業界では、多数の企業が環境に関する取組を行っていますが、まだまだ産業廃棄物やサーマル・リサイクルに回されているのが現状です。材料作成から成形品提案まで実施できる八木熊が環境マテリアルプランナーとしてお客様の課題解決に貢献していきたいと思っております。



Company Information

株式会社 八木熊

住所 / 福井県坂井市坂井町定旨 1 字柳指48-2
事業内容 / プラスチック製造業
創業年 / 1895年
代表者 / 代表取締役社長 八木信二郎
従業員 / 123名
<https://www.yagikuma.co.jp/>



会社ホームページ

地域の安全・安心な環境作りに取り組む

敦賀市立敦賀南小学校 愛育会（敦賀市）

SDGsに貢献！

- ・制服や体操服の「SDGsリユースルーム」の常設
- ・子どもたちの学びを支援



1. 常設されているSDGsルームでのリユースバザー 2. SDGsルームの黒板にペットボトルアートを楽しむ児童たち 3. 「安全の黄色いハンカチ運動」のお知らせと黄色いハンカチ

取り組みのきっかけ

敦賀南小学校の制服等のリユース・バザー活動は愛育会（PTA）が中心となり、25年近く続く活動です。児童数の減少により、校内の空き教室も増えたため、その教室を利用した活動ができないかと学校に相談したことがきっかけで「SDGsリユースルーム」を開設しました。制服や体操服が年間を通していつでもリユースできる部屋があることで、保護者や子どもたちもSDGsに関心を向け、活動に取り組めるようになりました。

特に注力しているSDGsの取り組み

制服や体操服がリユースできる部屋では、保護者が手作りで掲示物を作成し、子どもたちにSDGsを呼び掛けています。使わなくなった体操服からマスコットのぬいぐるみも誕生しました。ワクチン寄付のための「ペットボトルキャップアート製作」では、ペットボトルキャップを回収し、黒板にアートすることで、児童たちが学びながら楽しく体験しています。さらに、子どもたちの安全を守るために家庭で「できる範囲で」を合言葉に、交通安全を見守る「安全の黄色いハンカチ運動」も展開しています。

担当者の思い

愛育会副会長 小西 章子 さん

保護者がSDGsに取り組む姿を発信することで、自分事として考える親が増えてきました。子どもの教育について、保護者が主体となり、地域や子どもを守る責任と役割を意識するようになりました。今後、もっと保護者全体へ活動を広げ、参加する機会を増やしたいです。



Company Information

敦賀市立敦賀南小学校 愛育会

住所 / 福井県敦賀市清水町1-10-40

事業内容 / 小学校PTA活動

創業年 / 1947年

代表者 / 愛育会会長 奥野誠

在校生保護者・教職員 / 184名

(令和6年度)

<https://edu.ton21.ne.jp/minami/>



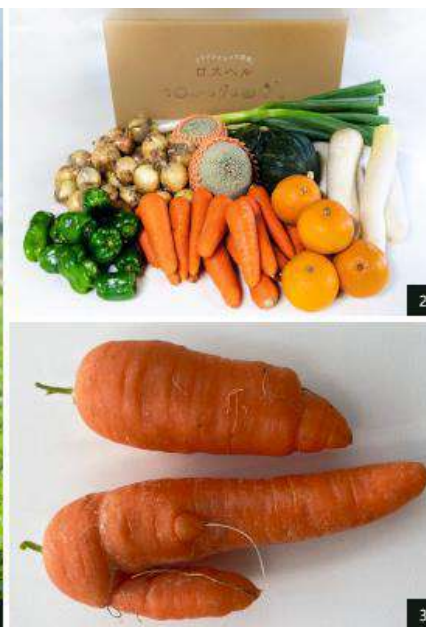
学校ホームページ

日本の食品ロスをゼロに近づける

エクネス株式会社（鯖江市）

SDGsに貢献！

- ・フードロスの削減に挑戦する事業を展開
- ・売り手にも、買い手にも、環境にも、「三方よし」のサービスを目指す



1.規格外の野菜宅配通販「ロスヘル」スタッフと提携農家 2.ロスヘルわくわくロス野菜パックイメージ 3.スーパーに並ばない規格外にんじん

取り組みのきっかけ

20年前から環境問題に興味があり、環境課題を解決できる事業を立ち上げようと準備を進めてきました。地球を持続可能な惑星にするためには、2030年までに温室効果ガスを半減することが最優先です。「可能な範囲で、最短で目的を達成できる事業は何か」という視点から、自動車の排気ガスと同じような温室効果ガスの排出に繋がる「フードロス」のテーマで事業を展開しました。廃棄される規格外野菜を集め、一般的な食品売り場の価格より安い価格で宅配する「ロスヘル」という活動を行っています。

特に注力しているSDGsの取り組み

2022年5月にサービスリリースし、2022年12月現在で月間20トン以上のフードロス（企業間の取引も含む）を削減できるレベルに達しました。全国から規格外の野菜や果物を仕入れています。フードマイレージ（※）についても考慮すべき課題だと認識しています。今後は、温室効果ガスを減らせる仕組み作りを行う予定で、遅くとも2030年までに年間5万トンのフードロスを減らす、日本ナンバーワンのフードロス削減企業を目指しています。（※）食料の輸送に伴う環境への影響を表す指標。「食料の輸送量×輸送距離」で表される。

担当者の思い

代表取締役 **平井 康之**さん

Instagramやホームページで環境問題についての情報発信を行っています。ご覧いただいた子どもたちや家族から、「環境問題について話し合うきっかけができた」という声をいただくことが増えました。採用面でも、当社をSDGsに取り組む企業として応募いただく数が増えるなどの成果ができています。



Company Information

エクネス株式会社

住所 / 福井県鯖江市上河端町36-4-3 2F
事業内容 / 手紙代筆、オプティカル事業、コンサルティング事業、フードロス事業
創業年 / 2018年3月
代表者 / 代表取締役 平井 康之
従業員 / 70名
<https://www.exness.co.jp/>



会社ホームページ

「次世代に続く豊かな暮らし」に貢献する

株式会社そごう・西武 西武福井店（福井市）

SDGsに貢献！

- ・お客さまとともに3つの社会貢献活動を推進
- ・百貨店の場を活用し、地域の自治体、学校、企業等と連携した活動を推進



1.視覚障がい者と盲導犬についての啓発活動として、毎年春と秋に「盲導犬キャンペーン」を開催 2.お客さまから履かなくなったこども靴を預かり、ザンビアのこどもたちに寄付 3.有料ラッピング代の半分以上を森林再生に取り組むNPO法人に寄付する「グリーンラッピング」

取り組みのきっかけ

1999年に百貨店業界として初めて、環境に関する国際規格ISO14001の認証を取得しました。2011年にはそごう全店も認証を取得し、現在はそごう・西武全店および全事業所で認証を取得しています。各店・各事業所では「環境・社会貢献委員会」を組織しており、商品やサービスの提供を通して、お客さまや取引先、地域とともに「次世代に続く豊かな暮らしづくり」に取り組んでいます。

特に注力しているSDGsの取り組み

西武福井店では、お客さまの気持ちを環境・社会貢献活動団体につなぐ「3つの社会貢献活動」を推進しています。具体的には、有料ギフトラッピング代の半分以上を森林再生のために寄付する「グリーンラッピング植樹育樹活動」、視覚障がい者支援につながる「盲導犬育成支援募金」、お客さまから履かなくなったこども靴を預かり、途上国に寄贈する「こども靴下取りサービス」です。また地域の方々と連携し、本業を通じて社会課題の解決につながるCSV活動やレジ袋削減にも取り組んでいます。

担当者の思い

教育推進トレーナー 小野 支伊子さん

2022年で21年目を迎えた「盲導犬育成支援募金」活動は、店頭で募金箱を12カ所設置し、地元の中学生・高校生と募金活動を行いました。また、こども靴の下取りは、7階のベビーこども用品売場で常に対応しており、他企業のイベントにも参加。活動を続けることで、お客さまに知ってもらえるようになり、ご協力をいただいています。



Company Information

株式会社そごう・西武 西武福井店

住所 / 福井県福井市中央1-8-1
事業内容 / 小売業
創業年 / 1928年
代表者 / 店長 田中 香苗
従業員 / 930名
<https://www.sogo-seibu.jp/fukui/>



会社ホームページ

100年企業を目指して、温暖化対策に取り組む

株式会社 土田鶏卵（福井市）

SDGsに貢献！

- ・卵の殻の堆肥化などによる温暖化対策
- ・地域の未来を担う人材の育成に貢献



1.鶏卵を粉砕して堆肥にする 2.土田鶏卵のGPセンター（鶏卵の選別包装施設）に太陽光パネルを設置 3.高校生の職場見学の様子

取り組みのきっかけ

当社は生産農場を持ち、福井県内へ鮮度の高い鶏卵を届けています。卵を産む鶏は暑さに弱く、年々厳しさを増す暑さに苦慮しており、廃棄物の削減に取り組むことで少しでも気温上昇の問題解消につながるのではと考えました。そこで卵の殻にカルシウムが多く含まれていることに着目し、卵の加工時に廃棄される殻を生産農場に持ち込み、堆肥化し、発酵鶏糞として販売しています。また、照り付ける太陽の光を有効活用するため、工場の屋根に太陽光パネルを設置して、発電した電力を自家消費しています。

特に注力しているSDGsの取り組み

創業以来、「人の幸せのために日々精進し、地域社会の発展に貢献する」が企業理念です。この理念にのっとり、高校生の職場体験や工場見学を積極的に受け入れています。高校生に地元の企業を知ってもらい、地域を好きになってもらうことで、福井に残る若い世代を増やすことができれば、地域社会の活性化につながると考えています。また、新たな取り組みとして、鶏卵パックの原料であるペット素材のリサイクルを目指し、地域の会社と連携しながら研究開発を進めています。

担当者の思い

代表取締役 **上野 顕士**さん

SDGsへの取り組みを始めてから、地域社会を意識する社員が増えたのが大きな収穫です。少しずつですがSDGsが社内に浸透し、進んで地域の清掃をしたり、会社から出るゴミの削減を意識したりと、身近なところから自主的な行動が増えてきました。会社の持続が、地域社会の持続と発展に結びつくように成長し続けたいと考えています。



Company Information

株式会社 土田鶏卵

住所 / 福井県福井市御幸2-25-44

事業内容 / 鶏卵製造卸販売

創業年 / 1937年

代表者 / 代表取締役 上野 顕士

従業員 / 71名（2022年11月）

<https://www.t-tamago.co.jp/index.html>



会社ホームページ

農業から環境問題まで、社会の課題解決のための活動を展開

福井県立福井農林高等学校（福井市）

SDGsに貢献！

- ・生徒が主体となってSDGsに関する記事をSNSに投稿
- ・全国農業高校・農業大学校デジタルコンテストでフランス大使館賞を受賞



1.SDGs宣言を発表 2.福井県SDGsパートナーシップ会議で事例発表 3.全国農業高校・農業大学校デジタルコンテストでフランス大使館賞受賞

取り組みのきっかけ

農林業は地球環境と深いつながりがあり、農業科では、自然を教材とした実習や体験学習を行っていることから、環境教育の展開が緊要であると考えました。そこで2019年7月、全国の高校農業科で初めてSDGs宣言を発表。持続可能な社会を達成することを目的に、県内唯一の農業単独校として、校訓「大地（たいち）に生きる」に基づいてSDGsを普段の学校生活につなげ、社会の課題解決を実現するための活動を始めました。

特に注力しているSDGsの取り組み

SNSサイト「note」を活用し、生徒が主体となってSDGsに関わる記事を投稿しています。取り上げる内容は、地球環境や人権といった社会問題から、農業高校生ならではの身近な疑問から生まれた探求レポートまでさまざまです。この取り組みは、全国で初めての事例として2022年3月に「全国農業高校・農業大学校デジタルコンテスト」のホームページ部門でフランス大使館賞を受賞しました。今後も、SDGsの普及に向けて記事を更新していきます。

担当者の思い

教諭 津野 佑規さん

SDGsの取り組みを通して大学教官や企業経営者、ボランティアの方など、県内外のたくさんの方とのパートナーシップを展開することができました。これからも、私たちが親しむ自然と、踏みしめる大地を次世代に残していくために、福井農林高校の校訓「大地（たいち）に生きる」の実現と、持続可能な社会の実現を目指します。



Company Information

福井県立福井農林高等学校

住所 / 福井県福井市新保町49-1
事業内容 / 高等学校
創業年 / 1893年
代表者 / 今澤ひかり
生徒数 / 381名（2023年4月1日現在）
<https://www.fukuinorin-h.ed.jp>



学校ホームページ

福井県産材の端材で価値を生み出す

水口木材株式会社（福井市）

SDGsに貢献！

- ・福井県産材の端材を活用したワークショップ
- ・未利用材を土壌改良材にアップサイクル



1.福井県産材で木の時計を作るワークショップの様子 2.端材をワークショップで活用 3.未利用材を炭化させて土壌改良材に

取り組みのきっかけ

木材流通業という林業を支える会社として、持続可能な環境や社会づくりへの取り組みは必然だと感じたからです。「森は海の恋人」という言葉もあるとおり、すべてはつながっています。当社では地球環境の勉強会なども実施し、社員一人一人が環境問題に目を向け、自主的に行動しています。こうした足元からの活動をモデルケースとして、同業者などにも伝えていきたいという想いもあります。また、働く機会の創出にも取り組みたいと思っています。

特に注力しているSDGsの取り組み

有限な資源である木材を廃棄することなく、付加価値をつけることで、山元へ還元できるよう取り組んでいます。その一環として、製材の過程で発生する福井県産材の端材を活用し、子どもから大人まで楽しめるワークショップを開催。木の良さを実感してもらうとともに、「森の恵み」を体感できる場になっています。また、樹皮や端材などの未利用材を製炭し、土壌改良材として資源循環させる取り組みで、カーボンニュートラルを目指しています。

担当者の思い

代表取締役社長 水口 悟佑さん

SDGsに取り組むことで、環境や社会問題に対する興味関心が会社全体で高まりました。また、SDGsという明確な目標があることで、事業目的を明確化できていると感じます。同じような取り組みをしている企業や自治体の活動にも着目しながら、今後も三方良しを目指し、多方面から社会へ貢献できる会社でありたいと考えています。



Company Information

水口木材 株式会社

住所 / 福井県福井市西方2-11-8
事業内容 / 木材流通業
創業年 / 1960年
代表者 / 代表取締役社長 水口悟佑
従業員 / 14名
<https://mizuguchi-wood.co.jp>



会社ホームページ

福井の特産物で環境にやさしい商品を

株式会社 大麦倶楽部 (福井市)

SDGsに貢献!

- ・麦ストローで脱プラスチックに貢献
- ・麦ストロー作りなど体験型SDGs講座の開催



1.「ふくいの大麦de体験しよう 食べて作ってSDGs」 2.あわら市伊井小学校での麦ストロー作り体験出前授業 3.おむぎママの麦ストロー®

取組みのきっかけ

脱プラスチックの流れの中で麦ストローが注目されていますが、ストローの起源は麦わら（麦の茎）です。このような歴史を背景に、大麦食品の加工販売を手掛ける弊社に、お客さまから「麦わらを使ったストローの販売を」との熱い要望が寄せられました。そこで、2019年に、六条大麦の茎を加工した「おむぎママの麦ストロー」を発売。これをきっかけに、小・中学校、地域でSDGsや脱プラスチック、環境問題に関する講座などを開催しています。

特に注力しているSDGsの取組み

麦ストローの普及のために、イベントやオンラインによる出前講座、ワークショップを展開。麦刈りや麦ストロー作り、わらを使った北欧生まれのモバイル「ヒンメリ」作りなど、親子で体験するワークショップを開催し、自由課題に取り組む高校生や大学生にも協力しています。2020年には、全国の麦生産者、SDGsを目指す企業などとともに（一社）広域連携事業推進機構を設立し、「ふぞろいのストロープロジェクト」に参画しました。

担当者の思い

代表取締役 **重久 弘美さん**

六条大麦は福井県の代表的な特産物です。この麦わらを使った麦ストローは、脱プラスチックやSDGsへの意識が高まる中で誕生しました。環境にやさしい商品として麦ストローをPRし知名度が上がるにつれ、大麦を使用したさまざまな食品も注目されるようになり、弊社の商品全体への関心につながっていると感じています。



Company Information

株式会社 大麦倶楽部

住所 / 福井県福井市殿下町46-4-1
事業内容 / 福井産六条大麦加工品製造業
創業年 / 2010年
代表者 / 代表取締役 重久 弘美
従業員 / 4名
<https://www.oomugi-club.com/>



会社ホームページ

老舗味噌屋として地域に根差した幅広い活動を

株式会社 米五（福井市）

SDGsに貢献！

- ・県産原料を使用した味噌づくり
- ・食を通じた幅広い活動を、小さなことでも継続して実施



1.店舗で実施しているマイカップ運動 2.カフェメニュー「焼きおにぎり」は国連WEPに40円/食を寄付 3.小学校での出張みそ作り教室

取り組みのきっかけ

今後も福井で味噌作りを継続していくためには、福井が持続可能な地域・社会であり続けることが重要であると考えています。その一助となるべく、当社としてもSDGsの取り組みを行っています。また、当社の取り組みの中には、もともとSDGsが目される前から実施していることもあります。それらの内容とSDGsの繋がりを整理する機会にもなりました。

特に注力しているSDGsの取り組み

カフェメニューでは「焼きおにぎり」1食につき40円を国連WEPの学校給食プログラムへ寄付、味噌の量り売りではプラスチック削減のためお客様に容器を持ってきていただく「マイカップ運動」を推進、製造する味噌の主原料である米・大豆は県産を積極的に利用するなど、幅広い活動に取り組んでいます。また、県内の小学校で「出前味噌作り教室」を実施したほか、工場見学や職場体験、共同研究なども積極的に受け入れています。

担当者の思い

多田 健太郎さん

既存の取り組みについては、SDGsへの繋がりを意識することで、改めて実施する目的や意義、重要性などを再確認する機会になりました。また、大豆を仕入れる際、同じ品質ならなるべく県産を選ぶなど、日常的な企業活動においてもSDGsが判断基準の1つになっています。



Company Information

株式会社 米五

住所 / 福井県福井市春山2-15-26
事業内容 / 味噌の製造・販売
創業年 / 1831年
代表者 / 代表取締役 多田 健太郎
従業員 / 22名
<https://www.komego.com/>



会社ホームページ

リサイクル資源から新しい素材を開発

株式会社 東郷商店 (福井市)

SDGsに貢献!

- ・ペットボトルを再利用した糸で生地づくり
- ・清掃活動で地域の環境美化に貢献



1. リサイクルペットボトルから作った糸を用いた自社ブランド「SAISA」の商品 2. 織ネームもリサイクル糸で製造 3. ボタンは天然の貝殻を使用している

取り組みのきっかけ

1997年1月、ナホトカ号重油流出事故により三国沿岸に大量の重油が漂着しました。三国在住で、重油の除去作業に全国から集まったボランティアの姿を目にした当社社長は、自らも作業に参加。これをきっかけに、社会の役に立ちたいという奉仕活動の精神を社員にも感じてほしいと、会社ぐるみで清掃活動を開始します。さらに近年は、地球環境に関する社会的関心の高まりを受け、繊維業の私たちにできることを考えるようになりました。

特に注力しているSDGsの取り組み

主力商品である衣料用の生地を、環境に配慮した素材で製造しようと、ペットボトルを再利用した糸の開発に挑戦。ファッション性を求められる衣料用の生地にふさわしい風合いの糸を作るために、大手繊維メーカーの協力も得て開発にこぎ着け、アパレルブランド「SAISA」を立ち上げました。コスト高にはなりますが、徐々にこの糸を用いた商品へシフトし、将来的には、全ての商品をエコ関連商品に切り替えることを目標にしています。

担当者の思い

宮塚 麻緒さん

SDGsの活動を知り、商品開発のみならず、自分たちの生活や周囲の環境を意識するようになりました。月に一度行っている地域の清掃活動も、自然環境の保護や改善につながる取り組みであり、継続してきてよかったと思います。より意欲的に参加する社員が増えており、プライベートにも仕事にも良い変化が現れてきています。



Company Information

株式会社 東郷商店

住所 / 福井県福井市城東1-14-31
事業内容 / 繊維卸売業
創業年 / 1989年
代表者 / 代表取締役社長 竹澤 文孝
従業員 / 14名
<https://tougoushouten.com/>



会社ホームページ

持続可能な観光を推進するための第一歩

株式会社 マップトラベル (敦賀市)

SDGsに貢献!

- ・水島とハワイの環境保護活動に売上げの一部を寄付
- ・年一回スタッフ全員で水島のビーチクリーン活動に参加



1.北陸のハワイ「水島」 2.年に1回、全スタッフで参加するビーチクリーン活動 3.売上げの一部を寄付するオリジナルマイボトル

取り組みのきっかけ

観光業は自然から大きな恩恵を受けている生業だと考えます。美しい海も、山も、川も汚れていたら観光客も来なくなってしまう…。美しい自然を活用して事業を行うからには、それらを次世代に残していくだけでなく、再生させ、よりよいものにして継承していくことが必要だと感じています。持続可能な観光を推進するための第一歩として、SDGsのゴールに向けた具体的な目標を設定し、毎年スタッフ全員で参加するビーチクリーン活動や、環境保護に貢献するための仕組みづくりなどに取り組んでいます。

特に注力しているSDGsの取り組み

環境保護に貢献するための具体的な仕組みを考える中で、海洋ごみを減らし、CO2削減にもつながるマイボトル運動に着目しました。ハワイで人気の hidro flask (保温保冷水筒のブランド) とコラボレーションし、水島のイラストをデザインしたオリジナルのマイボトルを制作。売上の一部を「北陸のハワイ」と呼ばれる水島と本場のハワイの海を守る活動に寄付する仕組みが実現しました。敦賀市のふるさと納税返礼品にも出品することで水島の観光PRにもつなげています。

担当者の思い

代表取締役 大道 哲平さん

年1回スタッフ全員で取り組んでいる水島のビーチクリーン活動はすっかり定着しており、スタッフに一体感が生まれるきっかけになっています。また、スタッフそれぞれが積極的にマイボトルを利用することで、事業所としてのペットボトルゴミも明らかに減っているのを実感しています。



Company Information

株式会社 マップトラベル

住所 / 福井県敦賀市中央町2-11-33-102号
事業内容 / 旅行業
創業年 / 1995年
代表者 / 代表取締役 大道 哲平
従業員 / 9名
<https://www.maptravel.co.jp>



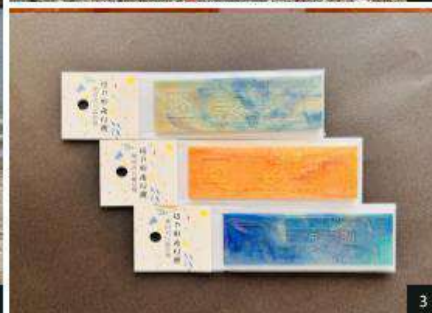
会社ホームページ

「海ごみ」を観光資源として活用

一般社団法人 若狭三方五湖観光協会（若狭町）

SDGsに貢献！

- ・海ごみのアップサイクルをテーマにした企画旅行の販売
- ・海ごみやペットボトルキャップが原材料の土産物を開発



1.香港からの教育旅行を受け入れた際、若狭の海岸で記念撮影 2.若狭の海岸に漂着した「海ごみ」 3.道の駅三方五湖オリジナルの「海ごみきっぷ」。

取り組みのきっかけ

海洋プラスチックを含む「海ごみ」は漁業被害をもたらし、景観を阻害します。漁業・農業を中心とした第1次産業や観光産業が盛んな若狭町にとって、海ごみは大きな課題です。それを「海の厄介者」と避けるのではなく、直視して課題解決に取り組むことが、若狭町環境宣言にある「循環型社会」の確立という理念に合致すると思に至りました。また、SDGsは旅行者の満足度向上はもちろん、“地域の誇り”にもつながると考えました。

特に注力しているSDGsの取り組み

当協会では、自然体験プログラムを中心とした企画旅行を商品化し、国内外から教育旅行を受け入れています。その一環として、若狭の海岸に漂着する海ごみのアップサイクルを学ぶ体験プログラムを造成・販売しています。また、地域住民の協力により回収したペットボトルキャップを原材料にした土産物「海ごみきっぷ」を開発しました。色がすべて異なるオンリーワン商品で、道の駅三方五湖で販売しています。

担当者の思い

「厄介者」でしかなかった「海ごみ」が資源化され、地域経済を活性化させる付加価値の高い商品に生まれ変わり、さらに海ごみの回収が促されるといった循環が生まれています。また、体験プログラムで海外からの参加者と交流し、海ごみのアップサイクルに対する熱量の大きさを知りました。

SDGsは世界をつなぐと感じています。



Company Information

一般社団法人 若狭三方五湖観光協会

住所 / 福井県若狭町鳥浜122-31-1

事業内容 / 若狭町の観光資源の開発および観光事業の振興

創業年 / 1963年

代表者 / 会長 竹越聡

従業員 / 13名

<https://www.wakasa-mikatago.jp/>



協会 ホームページ

三方五湖流域の自然を守りながら、地域経済の活性化を図る

一般社団法人Switch Switch（若狭町）

SDGsに貢献！

- ・自然資源の保全と活用につながる伝統漁法体験やカヤックツアーを実施
- ・伝統漁法で収穫される「ふな」を使った缶詰などの商品を開発



1.漁師から伝統漁法を学ぶ体験ツアーの様子 2.カヤックツアーで自然を満喫 3.商品開発の取り組みで誕生した「寒ぶなの缶詰」

取り組みのきっかけ

三方五湖は、国際的に重要な湿地として2005年にラムサール条約湿地に登録されています。私はエコツーリズムやまちづくり活動の経験を経て若狭町に移住し、自然保護団体の方や三方五湖の漁業者、農業者と話をすることで、三方五湖流域の環境保全と同時に地域経済を活性化させる事業の構築が急務だと気づきました。そこで、豊かな自然を活かした体験事業の構築、地元の産物を使った商品開発などの取り組みを始めました。

特に注力しているSDGsの取り組み

ラムサール条約が提唱するワイズユース（賢明な利用）の実現には、自然保護と経済活性化の両立が必要です。そこで、農業者や漁業者、専門家とともに、三方五湖と川、里山、田んぼなど一帯の自然資源の保全と活用を進めるエコツーリズムの仕組みを作っています。鳥浜漁業協同組合とは、「たたき網漁」の体験の提供や、伝統漁法で収穫される「ふな」の消費拡大のため、ふなバーガーや寒ぶなの缶詰を協働で開発しました。また農薬や化学肥料を減らし流域の自然環境に配慮したお米を原材料にしたせんべいや米粉を製造しています。

担当者の思い

代表理事 阪野 真人さん

「住んでいる人々が住み続けたいと思えるまちを創ることを理念とし、一般社団法人Switch Switchを設立しました。「寒ぶなの缶詰」は漁業者、研究者、高校生と1年間試行錯誤をした末に完成しました。時間はかかりますが、地域の多様な主体と共に、少しでも地域が良くなったと実感できる事業を作りたいと思っています。



Company Information

一般社団法人Switch Switch

住所 / 福井県三方上中郡若狭町鳥浜123-9-2
事業内容 / 飲食店、自然体験の企画運営、特産品開発
創業年 / 2018年
代表者 / 代表理事 阪野真人
従業員 / 4名
<https://switchswitch.org>



団体 ホームページ

エネルギー資源の有効活用を学ぶ体験プログラムを推進

一般社団法人 あわらし観光協会（あわらし市）

SDGsに貢献！

- ・バイオマス燃料の生産と消費の現場を訪れる「教育旅行プログラム」を作成
- ・エネルギーの地産地消を周知し、林業の活性化とCO2排出削減に貢献



1.「WOODバイオマスセンターさかい」見学の様子 2.（株）マルツ電波さんから木質チップの活用を聴講中 3.「夢ぐるま公園」では風力発電を紹介している。

取り組みのきっかけ

あわらし市には、地元の未利用間伐材など有効活用している「WOODバイオマスセンターさかい」が立地しています。このことを背景に、関係機関・団体が連携し、木質チップを活用してエネルギーの地産地消を行い、環境に優しく、市民にも外から訪れる人にも安心・安全なまちをつくろうという取り組みが進められてきました。当市は森林エリアとエネルギー消費地との距離が近いこと、運搬に伴うCO2排出の削減にもつながると考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

コロナ禍の影響で「あわらし温泉」の施設が県内学校の修学旅行に利用されるようになったことから、「教育旅行プログラム」を作成しました。バイオマスセンターの木質チップ製造工程や、本チップを使用する温泉施設のボイラーの見学、沸かしたお湯の体験、風力発電施設「夢ぐるま公園」の見学などを組み合わせたツアーで、参加した学校からは、体験を通じてSDGsを深く学ぶことができると好評をいただいています。

担当者の思い

エネルギーの「教育旅行プログラム」の実施によって訪れる市外の学校が増加。あわせて、市民にエネルギーの地産地消の取り組みや各施設を知っていただくきっかけになりました。子どもたちが林業などの仕事について学ぶ機会にもなっており、今後も関係機関・団体との連携を強化し、本プログラムの活用と誘客に努めます。



Company Information

一般社団法人 あわらし観光協会

住所 / 福井県あわらし市二面33-1-5
事業内容 / 観光誘客、広告
創業年 / 2010年
代表者 / 代表理事 前田 健二
従業員 / 9名
<https://awara.info/>



建築端材の再利用に取り組み、事業を活性化

ライジズ合同会社（越前市）

SDGsに貢献！

- ・ 建築端材でものづくりを体験できる木工教室の開催
- ・ 建築端材を再利用した木工製品を製作・販売



1.親子で楽しめる木工教室の様子 2.建築端材から木工製品を製作 3.木工製品をインテリアに活用した事例

取り組みのきっかけ

当社は「地球に優しい家づくり」をテーマに、リフォームやリノベーションで今ある建物や素材の魅力を最大限に引き出し、未来ある子供たちに永く受け継がれていくものを生み出していきたいと考えています。その一環として、建築現場で日々大量に廃棄されている端材の新たな活用を模索し、端材を素材としたオリジナルの木工製品の製作に取りかかりました。

特に注力しているSDGsの取り組み

当社では、建築現場で出た端材を自分たちで回収・選別し、お客様の声も取り入れながら照明器具やカトラリーなど様々な種類の木工製品の製作・販売しています。また、端材でプランターや踏み台などの“ものづくり”を体験できるイベントも開催し、好評を得ています。今後も端材を再利用する活動を通して、3R（ゴミを減らし、再利用し、資源化する）の促進に少しでも貢献していきたいと考えています。

担当者の思い

桐野 真祐美さん

SDGsと当社のテーマである「地球に優しい家づくり」には共通する部分が多く、社員全員がSDGsにより関心を持つことで、事業活動も活性化すると感じています。また、端材で作った木工製品を購入したお客様や、木工教室に参加した親子の笑顔が社員の喜びにつながり、仕事へのモチベーションを高めています。



Company Information

ライジズ合同会社

住所 / 福井県越前市稲寄町4-6-2
 事業内容 / 建築リフォーム 木工製品製作・販売
 創業年 / 2018年
 代表者 / 代表社員 塚崎 健治
 従業員 / 3名
<https://www.rises-llc.jp/>



会社ホームページ

環境保全活動に継続して取り組む

リコージャパン株式会社（福井市）

SDGsに貢献！

- ・里山保全会や坂井市と協働で、森林整備活動を継続
- ・6月を「SDGs強化月間」と位置付け、清掃やボランティア活動を実施



1. 第1回「リコー下久米田協働の森」参加者 2. 「越前水仙再生ボランティア」活動に参加 3. 事業を通じた社会課題解決と経営基盤の強化の2つの領域で、14のESG目標を設定

取り組みのきっかけ

リコーグループは、「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」という創業の精神を原点としたサステナビリティ経営に取り組んでいます。持続可能な社会の実現に向け、「事業を通じた社会課題解決」「経営基盤の強化」の3つの領域で7つのマテリアリティ（重要社会課題）を特定し、ESG（Environment：環境、Social：社会、Governance：企業統治）目標を設定しています。また、事業とSDGsの一体化を全社員で目指しており、福井支社もその一員として取り組みを推進しています。

特に注力しているSDGsの取り組み

下久米田里山保全会や市と協働し、森林整備活動「リコー下久米田協働の森」で、ソメイヨシノを植樹する活動を行いました。また、6月を社員がSDGsへの取り組みを考える強化月間としており、敦賀市主催の海岸清掃「クリーンアップふくい大作戦！」に10年以上連続で参加しているほか、越前町の「越前水仙再生ボランティア」活動では草刈りを行い、球根を植えました。地域社会発展に貢献できる会社を目指す「SDGs研究会in福井」も実施。新しい価値を共創することができるパートナーを目指しています。

担当者の思い

山内 壮悟さん

森林整備活動を行った地域の方から「森が整備され、人が入ることで、見晴らしが良くなり獣害が減った」と感謝の言葉をいただきました。こうした活動を通して、ビジネスとは社会に貢献することだと実感し、今の自分の仕事も幅広く社会に貢献していることを理解することで、会社に対して「自信」や「誇り」を持てるようになりました。



Company Information

リコージャパン株式会社

住所 / 福井県福井市御幸3-3-50
事業内容 / リコー製品を中心とした機器販売・保守・ソフト設計、開発
創業年 / 1959年
代表者 / 加納 弘道
従業員 / 110名
<https://www.ricoh.co.jp/>



会社ホームページ

全学をあげて SDGs活動に取り組む

仁愛大学（越前市）

SDGsに貢献！

- ・「FUKUI SDGs AWARDS」を学生が主体となって企画
- ・他の団体の活動情報を知る機会を増やす



1. 32件の応募の中から選出された「FUKUI SDGs AWARDS 2023」最終審査会でのプレゼン 2. 最優秀賞の表彰の様子 3. 受賞者・発表者の全体写真

取り組みのきっかけ

2020年に福井県 SDGs パートナーに登録し、全学をあげて活動に取り組みました。人間学部コミュニケーション学科では、以前よりゼミ生が周辺地域の自治体や企業、中学校などでSDGsについての啓蒙活動を行うとともに、一緒に活動内容を考えるなどの支援を行ってきました。2030年のSDGs達成に向け「福井県SDGsパートナーシップ会議」と連携し、県内の優れた取り組みを行っている企業・団体等を表彰する「FUKUI SDGs AWARDS 2020」は、学生が主体となって企画しました。

特に注力しているSDGsの取り組み

「FUKUI SDGs AWARDS」は、福井県を始めとした行政や、FBC（福井放送）、福井テレビ、福井銀行など企業が協賛・後援をする「産（民間企業）・学（教育機関）・官（行政）」により運営しています。また、県内では企業や学校、団体などがそれぞれ個別にSDGsの活動を行っていますが、他の団体の活動情報を知る機会が少ないのが現状です。最終審査会の場合が他の団体の活動を知る機会となり、今後の活動に活かすことで、更なるSDGsへの取り組みが活性化することを期待しています。

担当者の思い

システム開発局地域共創センター長
（人間生活学部 子ども教育学科 教授）
伊東 知之さん

「FUKUI SDGs AWARDS」では、社会人だけではなく小学生からのエントリーもあるなど、子どもの頃からSDGsを意識できるのはとても良いことだと思います。また、これからの社会を担う若い世代がSDGsに取り組んでいることを社会にアピールしていく機会につながっていると感じています。



Company Information

仁愛大学

住所 / 福井県越前市大手町3-1-1
事業内容 / 高等教育機関
創業年 / 2001年
代表者 / 学長 田代俊孝
従業員 / 学生 1,049名・教職員 92名
<https://www.jindai.ac.jp/>



学校ホームページ

カニ殻を活用して新商品開発

株式会社 glow (坂井市)

SDGsに貢献!

- ・廃棄されていた越前紅ズワイガニの殻を活用し、旨味調味料を開発
- ・県内4社のパートナーシップによって付加価値の高い商品開発に成功



1.「越前紅ズワイガニ旨味調味料」愛称：UMAMI1本45ml 2.オイルをかけるだけで、料理にカニの旨味と香りをプラス 3.製造工程の一部で、カニ殻を食用油に入れて沸騰させている様子

取り組みのきっかけ

越前ガニの加工販売を行う山下水産では、越前紅ズワイガニを使用した水産加工品を自社ECサイトで販売しています。同社から、カニ殻が年間1トンも廃棄処分されているという話を聞き、「もったいない！このカニ殻を使って商品を作れないか」と思ったのがきっかけです。その後、プロジェクトを立ち上げ、「越前紅ズワイガニ旨味調味料」（愛称：UMAMI）を開発しました。カニ殻を食用油に入れて沸騰させ、旨味成分を抽出したオイルを瓶詰めにして販売しています。

特に注力しているSDGsの取り組み

「越前紅ズワイガニ旨味調味料」は、SDGsの理念をもとに当社を含め4社が連携して開発しました。商品の製造はみくに隠居処（いんきょじょ）、原料調達は山下水産、企画・販売は当社とチケティファイが担います。原料となるカニ殻は、県内唯一の紅ズワイガニ漁船「大喜丸」（たいきまる）が水揚げしたカニの殻を活用したものです。新鮮なカニ殻を調達し、素早くオイルに加工することにこだわり、カニの旨味と香りをたっぷりと味わえる商品開発に取り組んでいます。

担当者の思い

代表取締役CEO 嘉門 大助さん

県内4社のパートナーシップによって、カニの旨味と香りを活かしたオイルという付加価値の高い商品を開発できました。北陸新幹線開業に合わせて販売をスタートし、たくさんの観光客の方に購入いただいています。また、飲食店でも「越前紅ズワイガニ旨味調味料」の導入が進んでおり、新たなメニュー開発につながっています。



Company Information

株式会社 glow

住所 / 福井県坂井市丸岡町熊堂第3-7-1-16 ソフト
パークふくい 福井県産業情報センタービル7階

事業内容 / Vtuberプロダクション
創業年 / 2021年
代表者 / 代表取締役CEO 嘉門大助
従業員 / 7名

<https://glow-hakumei.com/>

問い合わせ / info@glow-hakumei.com



会社ホームページ

障がい者の雇用を守る

ヤマト運輸 株式会社 福井主管支店（福井市）

SDGsに貢献！

- ・障がい者が加工した段ボールを販売し、売上の一部を加工賃として還元
- ・段ボールには恐竜のイラストや解説を描き、収納箱としての再利用を促す



1. 社会福祉法人 福授園での作業風景 2. 県内のヤマト運輸全店で「DINO BOX」を販売 3. 「DINO BOX」は3種類のサイズを用意（60、80、100）

取り組みのきっかけ

福井県長期ビジョン「誰もが主役のふくい」の理念にもとづき、社会福祉法人 福授園、資材製造元である三星、ヤマト運輸の3社が障がい者支援について協議を行いました。その結果、福授園の障がい者が加工した段ボール「DINO BOX」をより多くの人たちに知ってもらうため、県内すべてのヤマト運輸事業所で販売を開始しました。売上の一部は福授園に還元され、障がい者の雇用につながるため、今後にさらに販売先を拡大していきたいと考えています。

特に注力しているSDGsの取り組み

「DINO BOX」は障がい者を支援することに加え、福井県のPRにつながるよう、恐竜をモチーフにデザインしました。著名なイラストレーターや専門家に協力を依頼し、迫力のある恐竜のイラスト、福井県で発掘された恐竜たちや化石発掘調査の歩みについての解説を印刷することで、捨てたくなくなる段ボールになりました。段ボールのデジタル印刷は専用水性インクを使用し、リサイクル率は95%以上、と環境に配慮し、荷物の受取後に収納ボックスなどに再利用してほしいという願いを込めています。

担当者の思い

松村 大輔さん

障がい者支援という共通理念のもと、3社で協力して取り組んだことでより多くのアイデアが生まれ、多数の協力者に恵まれました。1社で取り組む場合に比べて、心強い味方がいるという気持ちになれたことが何より嬉しかったです。協業による効果を最大化させるために、今後もコミュニケーションを密にしていきたいと考えています。



Company Information

ヤマト運輸 株式会社 福井主管支店

住所 / 福井県福井市間山町3-60
事業内容 / 運送事業、倉庫業など
創業年 / 1919年
代表者 / 主管支店長 大家新伍
従業員 / 1112名（福井県内）
<https://www.kuronekoyamato.co.jp/>



会社ホームページ

補修パッチを開発し、衣服の廃棄削減に貢献

ジャパンポリマーク株式会社（福井市）

SDGsに貢献！

- ・ 県内の生地製造会社と協働し、余剰生地を活用したリペアパッチを開発
- ・ リペアパッチの販売やワークショップで、修復して長く使う価値を啓発



1. アウトドアブランドに採用されたリペアパッチ 2. イベントでリペアを実演する様子 3. 循環型のライフスタイルを提案するイベント「ぐるぐるふくい2024」で、リペアパッチを使って衣服を補修するワークショップを実施

取り組みのきっかけ

当社では、環境配慮型商品の推進を目標の一つに掲げています。目標を達成するには、環境に配慮した新商品開発が不可欠と考えていた折、アパレル業界で深刻化する廃棄問題に強い関心を抱きました。調査を重ねる中で、お気に入りの衣服を長く着ることが廃棄削減につながるのではないかと気付き、「PERFECTUM®（パーフェクタム）」を開発しました。自社が持つ熱転写ラベルの技術を生かしたリペアパッチ商品で、破れたり穴が空いた部分に貼り付けるだけで簡単に補修できます。

特に注力しているSDGsの取り組み

新商品の開発に当たっては、リペアパッチの原材料として、福井のテキスタイル工場で発生する余剰品や品質不良で使われない生地を活用したいと考えました。トヨシマセンイの生地と当社の接着技術を組み合わせ開発したリペアパッチは、既に有力アウトドアブランドに採用されています。また、県内外のアパレルブランドのイベントに参加するなど、リペアパッチの認知度を高める活動にも取り組んでいます。

担当者の思い

営業部 山本 和紀さん

イベントで消費者から「愛着のあるウェアを長く使いたい」と願う声が多く聞かれ、リペアパッチには商品としての大きな可能性があると確信しました。また、開発を通じ、廃棄問題の解決に取り組もうとする企業が数多くあることを知りました。そうした仲間と協力しながら、モノを長く使う文化の醸成に貢献したいと考えています。



Company Information

ジャパンポリマーク株式会社

住所 / 福井県福井市清水杉谷町45-300
事業内容 / 熱転写ラベル、熱転写機器の製造・販売
創業年 / 1985年
代表者 / 代表取締役社長 久保浩章
従業員 / 146名
<https://www.polymark.co.jp/>



会社ホームページ